週刊 YEARBOOK

日録20世紀

1944
昭和19年

7|22
平成9年7月22日発行
(毎週1回発行)第1巻第22号
¥560
講談社

「神風」「回天」特攻隊

原爆、レーダー、ペニシリン──日本の技術開発
43万人が大移動！「学童疎開」の"悲惨"体験
200万市民が歓喜したパリ解放の瞬間

▲三重県伊勢市、明野陸軍飛行学校の訓練生(昭和18年秋)。背後の飛行機は、陸軍2式戦闘機「鍾馗」。訓練生は、敗色濃い昭和20年、特攻隊員として出撃した。 林重男

◎表紙 浜松陸軍飛行学校にて。背後の飛行機は100式重爆撃機「呑竜」。 林重男

命中率わずか18.6パーセント! 若者6000人を犠牲にした「神風」「回天」特攻隊の"成果"

爆弾を抱えて敵艦に体当たり。昭和19年10月、敗勢必至の局面で、想像を絶する非人間的な戦術が展開された。神風特別攻撃隊である。「一億玉砕」のかけ声のもと、敗戦まで続けられた「特攻」で、多くの若者の命が失われたが、戦局の帰趨に影響を与えることすらなかった。

▼昭和19年11月8日、鉾田基地(茨城県新宮村)を出発する陸軍特別攻撃隊。先頭は、学徒報国隊の見送りを受けて挙手する隊長・松井中尉。 毎日新聞社

絶望的戦局挽回のため「特攻」が中心的戦術に

「零戦に二五〇キロ爆弾を抱かせて体当たりをやるほかに、確実な攻撃方法はないと思うが……どんなものだろうか?」

昭和一九年一〇月一九日、第一航空艦隊司令長官・大西瀧治郎中将(五三)のひとことで、神風特別攻撃隊がフィリピン・マバラカット基地で誕生した。フィリピン・レイテ島に上陸する連合軍を迎撃するため、レイテ湾突入をはかる栗田健男中将(五五)指揮下の三九隻の艦隊を援護する航空兵力は、一〇月初めの三〇〇機からわずか五〇機に減耗していた。爆弾を抱いた体当たり攻撃で、その劣勢を挽回しようとしたのだ。

この時すでに海軍は「特攻」戦術を採用し、専用兵器の開発まで始めていた。一九年二月に人間魚雷「回天」の試作を命じ、六月には二五〇キロ爆弾を積んだ合板製モーターボート「震洋」の量産を開始する。連合艦隊は六月のマリアナ沖海戦で致命的打撃を受け、七月、サイパン島が陥落。こうした絶望的な戦局の中で最初の特攻が敢行されたのだ。

関行男大尉(二三)以下二四人の特攻隊は、昭和一九年一〇月二五日に初戦果をあげる。レイテ沖で米護衛空母「セント・ロー」を撃沈、ほか五隻に損傷を与えた。一方、一一月二〇日には、魚雷を改造し一五五〇キロ爆弾を積んだ一人乗りの人間魚雷「回天」が戦果をあげる。潜水艦から出撃した回天特別攻撃隊菊水隊の五隻が、西カロリン諸島ウルシー泊地で米軍タンカー一隻を撃沈。一一月七日

◀特別攻撃隊の生みの親、大西瀧治郎中将。

「丸」提供

▲昭和19年12月15日、米空母に突入する神風特攻隊銀河隊機。米軍は、特攻攻撃にはばまれレイテの制空権が確保できず、一時期作戦が停頓する。 毎日新聞社

からは陸軍も特攻作戦を開始し、以後、特攻は日本軍の中心的戦術となった。

特攻の猛威にさらされた米兵は「スーサイド・アタック（自殺攻撃）」、「デビル・ダイブ（悪魔の飛びこみ）」と呼んで恐れ、中には神経症を患うものまでいたという。米巡洋艦「モンペリエ」の水兵ジェームズ・フェーイーは「敵機と爆弾が僕らのまわりにびゅんびゅん落ちてくる。（中略）またもう一機、ものすごい急降下で突っ込んできて、五インチ砲座をかすめた。（中略）まわり一帯には、一人の日本のパイロットの血と内臓（中略）、腕が散らばっていた」（『太平洋戦争アメリカ水兵日記』）と、特攻の凄惨なありさまを記している。

しかし、たとえば終戦までに二・四九〇機を投入した海軍の航空特攻の成果は、米軍発表によると沈没四八隻、損傷二一〇隻。命中率一八・六パーセントと、一六年緒戦のマレー沖海戦での魚雷攻撃命中率四〇・八パーセントに比べるとはるかに低かった。

こうした「戦果」に、当時ベテランのパイロットとして活躍し、自身も硫黄島で体当たり攻撃を命令されたという坂井三郎氏（現・七七歳）は憤りを隠さない。

「零戦は爆弾を積んで急降下すると舵がきかなくなる。そんなことも知らない人間が命令を下していた。効果がなければ、すぐにやめるべきなのに、他人の命だからといって沖縄戦までダラダラと続けていた神経は、まともとは思えません」

二〇歳前後の青年が「志願」を強制されて

当初、限定された戦術だった特攻は、フィリピン陥落後も「全軍特攻」「一億玉砕」のかけ声のもとに続けられた。ついには零戦の半分以下の速度の練習機「赤トンボ」までもが投入される。それ自体が目的となった特攻で、結果的に約六〇〇〇人の命が失われたのである。その中心となったのは飛行予科練習生（海軍）、特別操縦見習士官（陸軍）や学徒動員で予備士官となった一〇代後半から二〇歳前後の青年で、訓練もそこそこに出撃していった。「志願」が建て前だったが、一部では周囲の状況や上官の圧力によって志願を強制されたものもいた。

海軍特攻隊御盾隊の一員として、出撃前に終戦を迎えた黒田健二郎氏（当時・二三歳）はこう語る。

「ぼくは絶対志願するまいと決めていたから部隊編制時に名前を呼ばれた時は驚いたなんてもんじゃなかった。上に報告する人間が『全員志願』と言ったんです」

「二〇年二月、「まっすぐ飛ぶことさえできなかった」黒田氏は、こうして特攻隊に「志願」したのである。

また「回天」の場合は、特攻兵器ということを隠して隊員を募集している。一九年一〇月に「志願」した神津直次氏（当時・二二歳）はこう語る。

「募集文書には『その性能上特に危険をともなう』としか書かれていなかった。生還の可能性があると思ったからこそ志願したんです」

二〇年八月一五日、神津氏は敗戦の報に接した時のことを、今でも忘れないという。

「死ぬために訓練していたぼくらにとって、死は早いか遅いかの違いだけだった。それがある日突然、ぶつりと断ち切られてしまった。まさか、『一億玉砕』を主張していた上層部が降伏するとは……。なんのために大勢の仲間たちは死んだのか、やるせない思いでいっぱいでした」

▲「回天」は、「93式魚雷」を一人の乗員が操作できるように改造したもの。1550キロの爆弾ごと体当たりする人間魚雷だった。 毎日新聞社

戦争末期に登場した人間兵器

作戦可能な艦船も航空機も先細りとなった日本軍は、人間を消耗品扱いする「特殊兵器」を次々と開発した。まさに断末魔のあがき以外の何ものでもなかった。桜花、蛟竜、伏竜、震洋、橘花、剣などがその代表的なもので共通する特徴は、いずれも乗員の生還が百パーセントありえない「必死必中」の構造になっていたことだ。それも敗戦が近づくにつれ、効果の点だけで言えば児戯にも等しいものまで考案された。

伏竜はその中でも最も原始的な「兵器」だった。つまり潜水具をつけた兵士に海中を歩いて停泊中の艦船に接近させ、棒の先につけた15キロの機雷を突き刺そうというもの。実際には訓練段階で事故が続出し、実用化以前に敗戦を迎えた。1式陸上攻撃機に吊るされ、目標近くで1200キロ爆弾とともに落下させる人間ロケット爆弾は桜花と命名された。しかし米軍は絶対に命中しないと多寡をくくり、「bakabomb（バカ爆弾）」というニックネームをつけた。「マルレ」は陸軍が作った特攻ボート。合板製の船体に自動車エンジンを搭載、爆雷2個を積み、夜陰に乗じて敵船に奇襲をかけようというもの。昭和19年中に1200隻が建造され、フィリピン作戦に投入されたが、多くは輸送途中でバシー海峡に沈み、到着したものも全滅した。

毎日新聞社

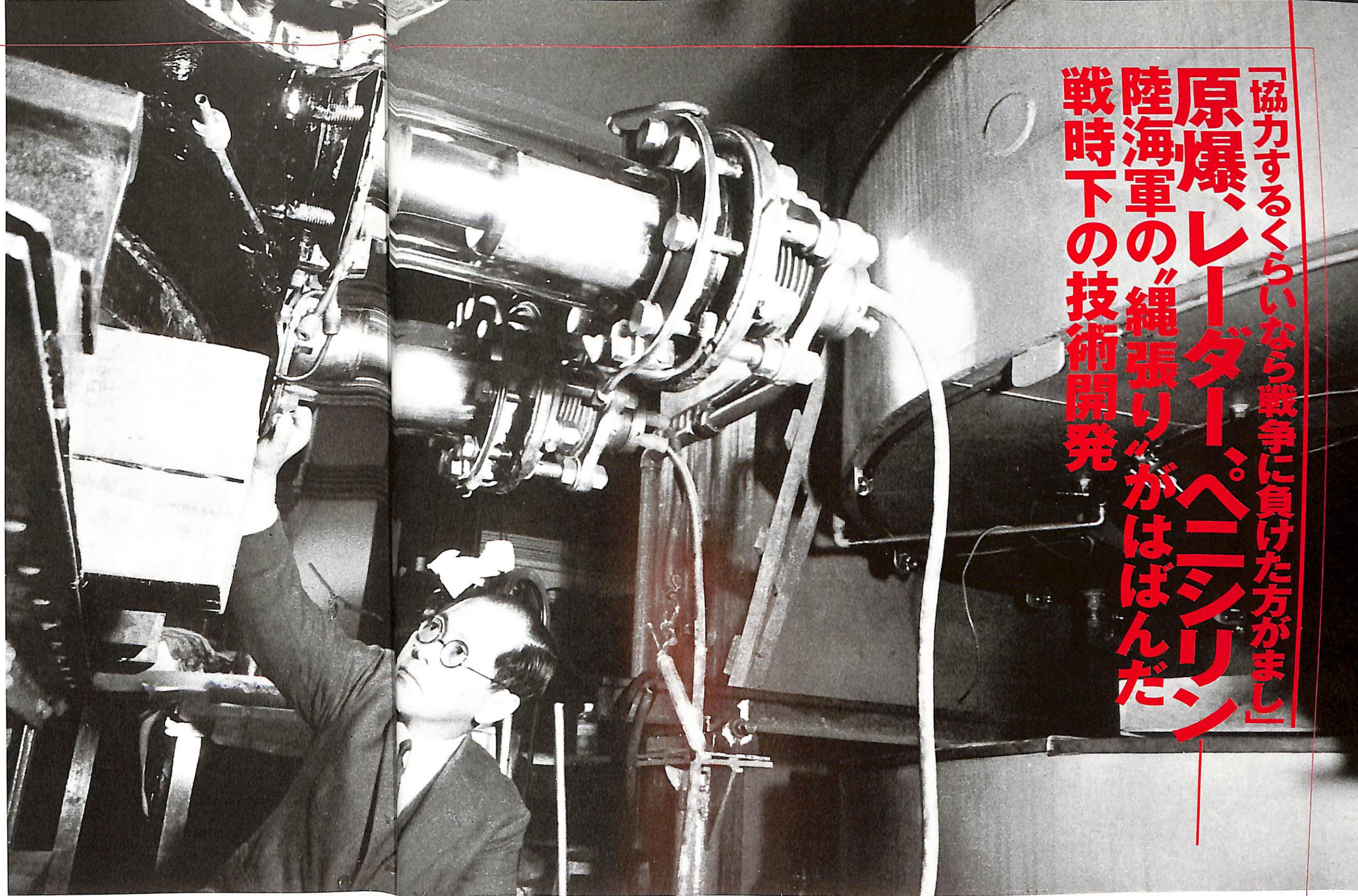
▲乗員一人、時速648キロの人間ロケット「桜花」。

三菱重工業提供

▲乗員5人、魚雷を2発搭載した「蛟竜」。

三菱重工業提供

◀大型上陸用舟艇「震洋」。艇首に爆弾を搭載。

「協力するくらいなら戦争に負けた方がまし」
原爆、レーダー、ペニシリン 陸海軍の〝縄張り〟がはばんだ戦時下の技術開発

▲仁科芳雄は、昭和17年に陸軍の依頼で原子爆弾の可能性を検討し始め、18年「二号研究」が発足。実験は進まず装置は20年の空襲で焼失した。 菊池俊吉

昭和一九年、現在テレビ受信用に広く使用されている八木アンテナの発明で有名な、八木秀次が技術院総裁に就任した。科学技術戦の時代を迎え、政府や軍の期待を集めての人事だった。しかし、陸軍と海軍の反目、科学者と軍人の対立など、技術開発を妨げる問題が山積していた。

英米と差がついた要因は脆弱な研究体制にあった

「一種悲壮な気持ちで引き受けました」

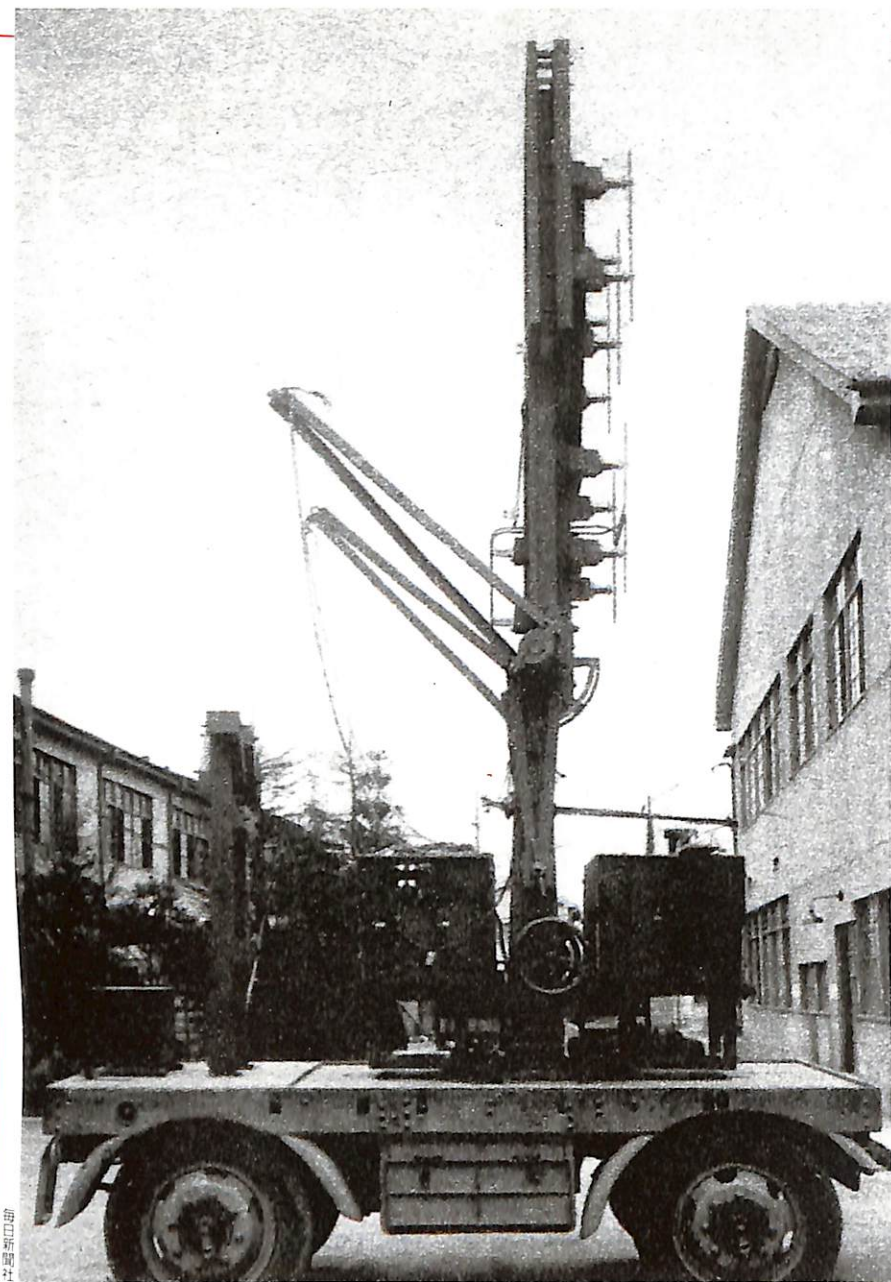
昭和一九年一二月五日、総裁就任後の記者会見での八木秀次（五八）のコメントである。しかし、これは〝身にあまる重責〟という心境を表す謙遜や、社交辞令ではなかった。実はこの時八木はすでに日本の敗戦を確信していたのである。電波の専門家であり、外国語も堪能な八木にとって、海外のラジオ放送の受信など、簡単なことだった。八木は戦況を正確に把握していた。ただし、負けるにせよ、引き受けたからには全力をつくそう、そう決意した八木を悩ませたのは、技術開発自体のむずかしさではなかった。

戦後、来日した米国の科学情報調査団による『コンプトン報告書』によると「陸軍と海軍は、互いに協力するくらいなら戦争に負けた方がましだと考えていた」とある。さらに「軍は科学者をまるで〝外国人〟のように扱い、敵国の装置の情報すら機密にした」ともある。

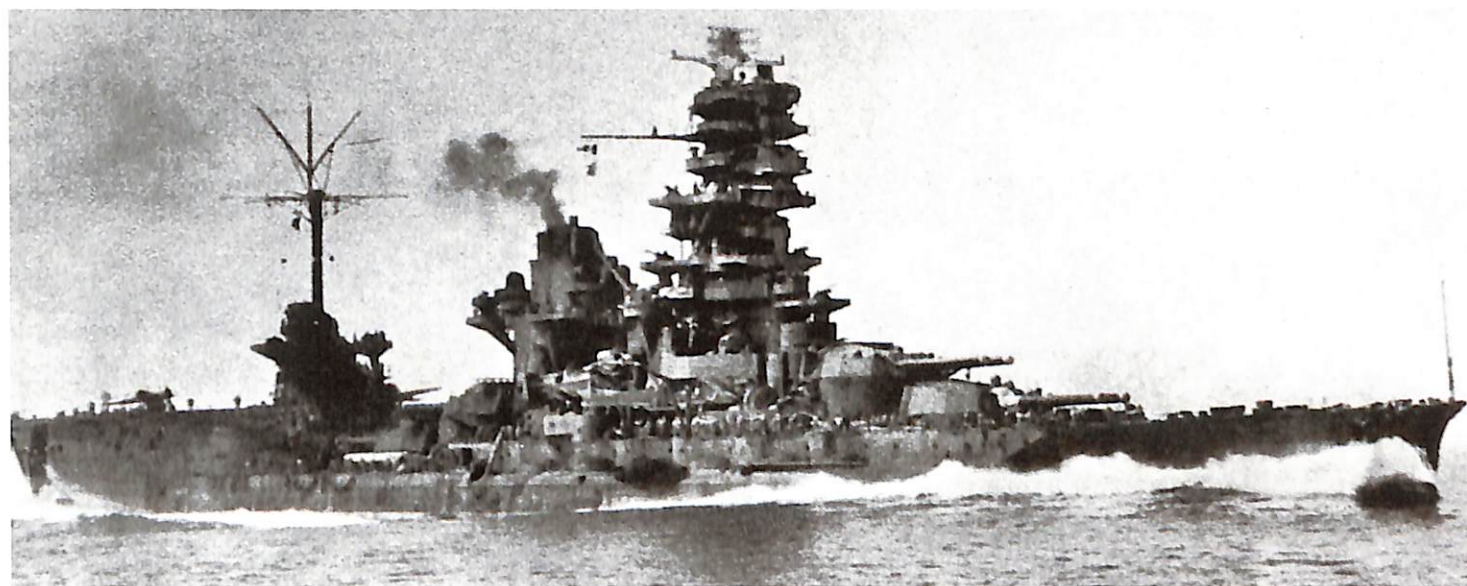
技術院総裁に就任した八木の悩みもまさにそこにあった。技術院本来の航空技術や機械、応用化学などの研究の進捗管理だけでなく、お互いの技術を隠しあっている陸・海軍や民間の研究所との調整も技術院の仕事であった。さらに、軍と科学者は、そのスタンスからして違っていた。軍は文字どおり「即戦力」を求めていたが、科学者はあくまで科学研究に没頭したいと考えていた。

こういった事情は、昭和一八年から原爆の開発を行っていた理化学研究所の仁科芳雄研究室でも同じである。研究者は原子物理学の研究のために原爆製造にたずさわった。また、原爆開発はかつて陸軍と海軍の技術研究所、海軍艦政本部と、少なくとも三度取り上げられたが、いずれも独自に行われ、技術的交流はなかった。オッペンハイマーやフェルミなど、当代一流の科学者がロスアラモス研究所に集まり、産・官・学が原爆開発に一丸

毎日新聞社

▲多摩陸軍技術研究所で試作された味方機誘導装置「タチ13号」。〝多摩研〟の研究は、現在のバッジ・システム（自動防空警戒管制組織）開発の先駆けとなった。

▼ペニシリンは瓶の中で培養されたため、牛乳プラントの設備が転用できた。写真は、20年3月、森永三島工場で培養液を瓶につめているところ。

菊池俊吉

となった米国のマンハッタン計画とは、研究組織のあり方自体からして雲泥の差があったのだ。

▲昭和16年、戦艦「伊勢」に電波探信儀（レーダー）が初装備された。研究開発に着手したのは、海軍よりも陸軍の方が早かった。　毎日新聞社

ノウハウを高めることが後の高度成長の原動力に

そもそも八木はなぜ、技術院の総裁に請われたのか。話は昭和一七年にさかのぼる。この年二月、軍の技術陣は、日本軍のシンガポール占領による戦利品で沸き立っていた。戦利品とは英国のレーダ一二基、さらにそのレーダーの性能や取り扱いが克明に記されたノートである。

ところが、どうしてもわからない単語がある。ノートのいたるところに〝YAGI〟という単語が出てくるのだが、ヤジかヤギなのかもさだかでない。

軍はさっそく、このノートを書いた捕虜を尋問した。ところが彼は、一瞬からかわれているのかという顔をし、その後信じられないという表情でこう語った。

「それは、そのアンテナを発明した日本人の名前だが、本当に知らないのか？」

尋問者は絶句した。そして発明者の八木が、軍で一躍注目をあびた。

これは日本の軍部が、技術に無理解であったことを裏づけるエピソードとして流布されている。しかし、軍部が科学技術に無関心だったわけではない。昭和一三年の国家総動員法公布とともに、軍は多くの研究をさまざまな研究機関に命じている。開戦後、この科学動員は本格化し、一五年に陸海軍合わせて約一億円だった臨時軍事費中の研究費は毎年ふえ、二〇年には約三億円に達していた。

科学社会学を専攻する東京大学助教授・松本三和夫氏が当時の状況を語る。

「レーダーは一一年頃から海軍技術研究所などで研究されています。レーダー技術の基礎になるマグネトロンを開発し、当時世界で最も周波数の短い電磁波を出力できるものも作っています。問題はこういった研究機関の交流がなく各自が勝手な方向を向いていて、全体をプロデュースできる人がいなかったことです」

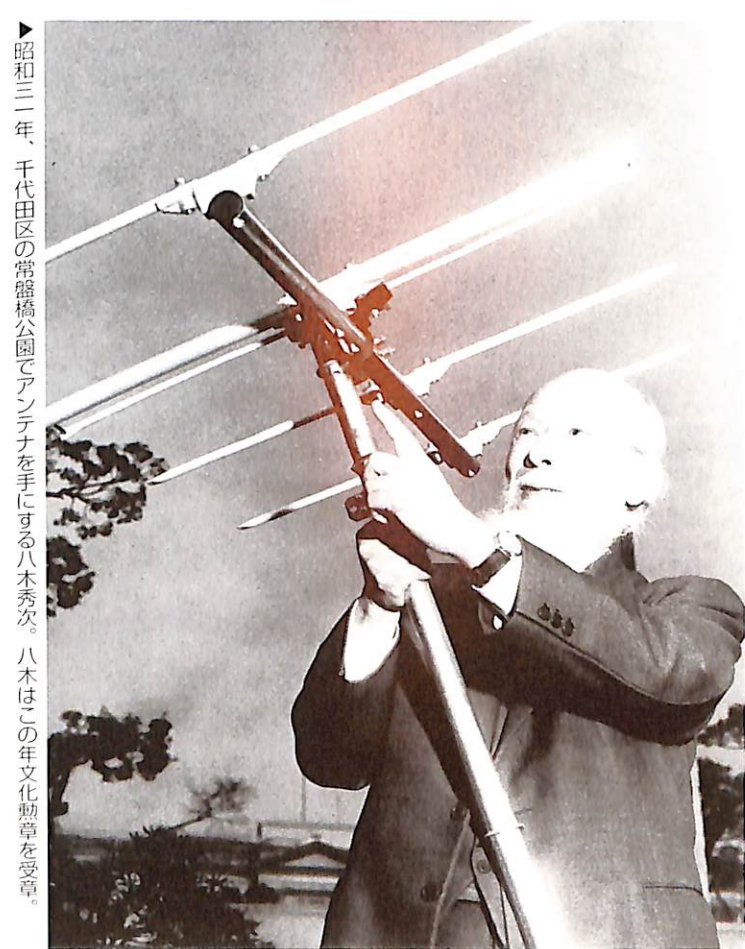
結局、英米には原爆やレーダー、電子計算機などさまざまな〝成果〟が戦後残ったが、日本にはほとんど何も残らなかった。ただ、陸軍軍医学校を中心に研究され、一九年に成功したペニシリンの量産技術のみが、数少ない遺産となった。

「たしかに大きな〝成果〟は見られません。しかし、終戦までにできあがった、軍・学・産を横断する人的ネットワークに属する人々が、民間企業に拡散し、戦後もそのネットワークが残ったのです」（松本氏）

さて、前述の『コンプトン報告書』は「日本には、組織的に技術開発をするノウハウが欠けていた」としている。しかし、「物資不足の中での研究のレベルを見ると、ノウハウを身につけた時、恐るべき存在となる」とも記している。

一方、終戦後、技術院総裁を辞任した八木はこうコメントしている。

「日本は科学力以前に、すでに思想と精神で負けていた。科学を培う精神と思想もなく、応急的に道具として科学を使おうとしても、使いきれるものではない」

これらの反省から、日本企業はニーズをとらえ、それと科学技術を結びつける方法論を確立していく。はたして、R&D（技術開発）のノウハウを飛躍的に高めた戦後日本は、報告書の記述を証明するかのように、優れた電化製品や自動車、エレクトロニクス製品を生み出し、高度経済成長をとげるのである。

▶昭和三一年、千代田区の常盤橋公園でアンテナを手にする八木秀次。八木はこの年文化勲章を受章。

女たちの肖像

「俳優座」結成に参加 女優・東山千栄子の品格と貫禄のゆえん

稲葉真弓

日本を代表する劇団「俳優座」が結成されたのはこの年の二月だが、戦火の最中芝居どころではなく、疎開を余儀なくされた。この時、創設メンバーの千田是也（三九）、岸輝子（四八）らが身を寄せたのは、ともに旗揚げした東山千栄子（五三）が所有する静岡県御殿場の別荘だった。東山らは、さつま芋やとうもろこしを作りながら、芝居のできる日を待ったが、東山の「桜の園」のラネフスカヤ夫人が復活したのは昭和二〇年一二月、毎日新聞主催の新劇合同公演で、実際に「俳優座」が本公演を行ったのは二一年三月のことだった。

▲豊かな西欧的教養と情熱の烈しさで翻訳劇には欠かせない存在に。

東山千栄子は、貴族院勅選議員・渡辺暢の次女。伯父である東京帝大法科の教授・寺尾亨の養女になり、学習院女子部で学ぶなど何不自由ない環境で育った令嬢である。その令嬢が女優になるにはそれなりの曲折があるのだが、一八歳で結婚した貿易会社のモスクワ支店長・河野通久郎の影響も見逃せない。結婚と同時にモスクワに渡った彼女は、以後八年間、本場のバレエや芝居を観る機会を得たが、この経験が後の女優開眼につながったとも言えるからだ。

そもそも芝居を志したのは、不毛の結婚生活にあったという。「生活に張りあいがなかった。恋愛結婚したというのではなし、子どももいない。毎日がやりきれませんでした」と後に彼女は語ったが、大正一二年、関東大震災に遭遇したことも〝有閑マダム〟の暮らしに虚しさを感じるきっかけになった。「生き直そう」と思っていた矢先、築地小劇場の「朝から夜中まで」という芝居を観て感銘を受け、夫の友人で同劇場の演出家でもある小山内薫に女優志願を申し出たのである。この時彼女は三六歳だった。

当たり役の「桜の園」のラネフスカヤ夫人の初演は昭和二年。貴族的な品格と貫禄が買われての大抜擢だった。以来、同夫人役を三〇〇回以上演じ、昭和二七年この役で芸術選奨文部大臣賞を受賞、三三年には新劇俳優協会会長に就任、四一年には新劇界初の文化功労者に選ばれた。

映画でも活躍。小津安二郎監督の「麦秋」「東京物語」などの老婦人役は、芸域の広さを印象づけ多くのファンを得たが、五〇年乳癌の手術をした後は御殿場の別荘に隠遁。五五年、新劇に賭けた〝貴族的女優〟は、養女夫婦にみとられつつ生涯を閉じた。

勝者・敗者

監督兼投手で二二勝四敗 戦前最後の〝MVP〟若林忠志

阿部珠樹

「職業野球」と呼ばれていたプロ野球は、この年団体名を「日本職業野球連盟」から「日本野球報国会」と改めた。水原茂、沢村栄治、川上哲治、景浦将といったスター選手たちは、バットとボールの代わりに銃剣と手榴弾を抱え、戦地を駆けまわっていた。

選手は圧倒的に不足し、試合数を大幅に減らして、春、夏、秋の三シーズン制、六球団のリーグ戦が行われることになった。

この悲痛な変則シーズンに、大活躍を見せたのが阪神の監督兼投手、ハワイ生まれの若林忠志だった。

春夏のシーズンで、全三五試合中三一試合に登板して二二勝四敗、チームの勝ち星二七勝のうちの八割以上を、一人で稼ぎ出したのである。完投二四、完封五、勝率八割四分六厘、防御率一・五六、すべての投手成績部門でトップだった。この中には一四試合連続登板という猛烈な記録も含まれている。各チームとも選手が不足し、投手の酷使は珍しくなかったが、その中でも若林の成績は飛び抜けていた。それは朝日の内藤幸三があげた一一勝が若林に次ぐ勝ち星ということで理解される。しかも、驚くべきことに、このすさまじい成績をあげた若林は、なんとこの年三六歳の超ベテランだったのだ。

この若林の活躍により、阪神は、春は巨人と同率の首位、夏は一位となり、秋のシーズンに巨人と年度優勝をかけてぶつかることになった。しかし、阪神が巨人と雌雄を決する機会は訪れなかった。戦局が悪化したあおりで秋のシーズンは打ち切られ、春夏の総合成績で、年度優勝は阪神となった。若林は当然のように、最高殊勲選手に選出された。

打ち切られた秋のリーグ戦に代わり、九月、後楽園、甲子園、西宮の三球場で、「日本野球総進軍優勝大会」が開かれた。九日間で三万三〇〇〇人の観客を集めたこの大会が、日本野球の戦前最後の姿だった。若林はここでも七試合に登板し、六勝をあげた。野球への惜別の念に満ちた力投だった。

毎日新聞社

▲この年、若林はわずか14人を率いた。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

毎日新聞社

▲門松代わりの必勝祈願（1月）元日に東条首相が国内や満州（中国東北部）、タイなど「大東亜共栄圏」に「必勝」の決意と団結を訴えた。東京・浅草でも厳しい年の現実にこたえた。

▲アイゼンハワー、最高司令官に就任（1月14日）ルーズベルト米大統領に任命され、この日、ロンドンに着任。6月の対ドイツ「史上最大の作戦」、北フランス上陸作戦の準備に入った。写真は2月14日、連合軍最高会議でのアイゼンハワー（中央）。

毎日新聞社

▲新丸ビル用地を用水池に（1月8日）東京駅前に建設中だったが、戦時のため工事を中断、防火に備え、鯉を放って食糧増産をはかることになった。工事が再開されたのは7年後。翌27年11月落成した。

毎日新聞社

▶女子青少年団、各地で結成（1月27日）政府や大政翼賛会の肝いりで全国に誕生。写真は東京の下谷女子青年団結団式。ほどなく女子勤労挺身隊に吸収され、軍需産業などに配置されることになる。

朝日新聞社

▲双葉山、37連勝ならず（1月14日）東京・両国国技館での春場所6日目、松ノ里に敗れた。この場所を「アサヒグラフ」1月26日号は「その悽愴苛烈さ西南太平洋の戦いにも比すべき」と記した。

昭和19年 1月

1（土）●東京都、蓄電池で動く電気バスの運行開始。
2（日）●東京都が国民学校児童二七万人に味噌汁給食の実施を決める、と新聞に。
3（月）●石炭増産に中国人労働者を動員と軍需省提言。●飯田蝶子主演「おばあさん」封切。
4（火）●運輸通信省、輸送力不足打開のため、牛馬車の増量など小運送力の増強策決定。
5（水）●仏印産の米など食糧の対日供出協定に調印。
6（木）●海軍機雷学校で雑音の中から潜水艦の音を探知する少年水測兵を訓練中、と新聞に。
7（金）●大本営、インド－重慶ルート遮断のためのインパール作戦を認可（3月8日作戦開始）。●内閣恩給局、初の官庁疎開で小田原市に開庁。
8（土）●女性だけの世帯には酒の配給停止、と新聞に。
9（日）●ヨーロッパ東部戦線でソ連軍の攻勢始まる。
10（月）●女子専門学校に工業科など新設と文部省構想。
11（火）●中国から発進の米軍機、台湾の高雄を空襲。
12（水）●五人世帯三〇〇円など疎開奨励金要領を決定。
13（木）●軍需省、東北のぞく本州全域に最高四〇％の電力制限実施。超過消費者には送電停止。
14（金）●アイゼンハワー最高司令官、ロンドン着任。
15（土）●ヨーロッパ諮問委員会、終戦後のドイツを占領区ごとに分割統治することに合意。
16（日）●航空機増産で陸海軍関連の工業会を一本化、軍需省直轄の航空工業会設立。
17（月）●軍需会社として三菱重工、中島飛行機、日立造船など第一次一五〇社指定。
18（火）●閣議、学徒勤労動員は年四ヵ月継続動員と決定（3月7日通年動員に拡大）。
19（水）●総合雑誌が「公論」「現代」「中央公論」の三誌に。
20（木）●台湾出身の特別志願学徒兵が水戸で入営。
21（金）●東京都、木製バケツなど防空資材を厳重検査。
22（土）●貴族院、女子速記生の養成を決定。
23（日）●国鉄運賃の平均四割値上げ決定。東京－大阪間が一一円五〇銭に（4月1日実施）。
24（月）●スイカ・メロンなどの作付けが禁止される。
25（火）●住職不足で曹洞宗が住職の妻に修行を命令。
26（水）●東京・名古屋に初の建物疎開（取り壊し）命令。
27（木）●ソ連、レニングラードを三年ぶり独から解放
28（金）●本年度の歌会始は中止と発表される。
29（土）●「中央公論」「改造」の編集者検挙（横浜事件）
30（日）●九段中学に全国初の養護学校設置、と新聞に。
31（月）●富士写真フィルム、航空カメラ用レンズとカラーフィルムの試作を開始。

ニュース・ファイル 1944

フォト＋日録で再現する366日

連合軍は、太平洋諸島の日本軍守備隊を次々に撃破。七月ついにサイパンを落とし、「絶対国防圏」は瓦解した。インパール作戦、大陸打通作戦も起死回生とはならず、東条に代わった小磯内閣が八月には「一億国民総武装」を決定、本土決戦が現実味をおびてきた。

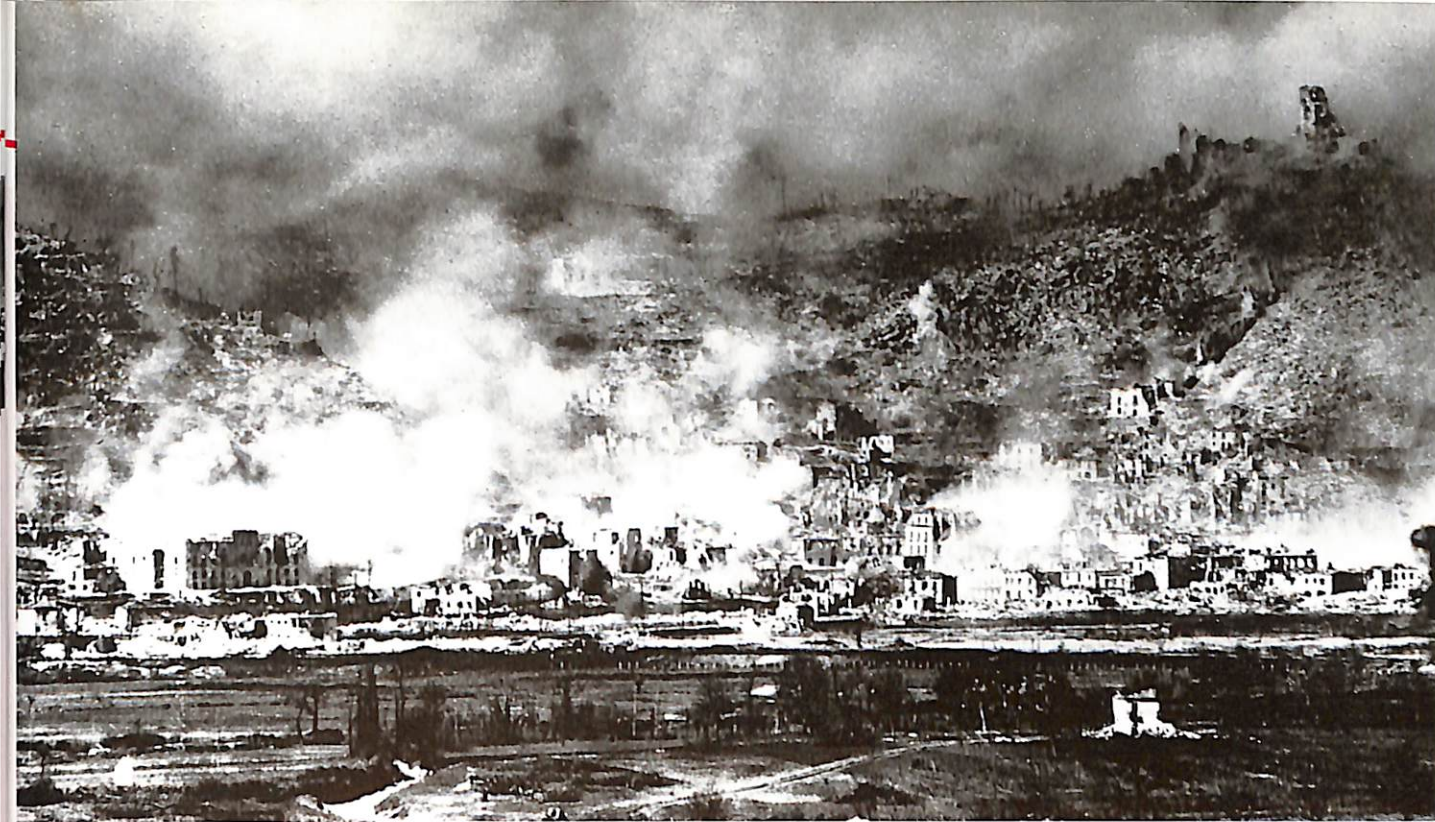
◀横綱双葉山ら滞貨一掃（4月12日）5月7日から後楽園球場で始まる夏場所を前に、50人の力士が怪力を披露。人手も列車も不足の運輸に一役かった。横綱（写真手前）らは15日にも所沢の陸軍航空士官学校を慰問した。

毎日新聞社

◀連合軍、モンテカシノの修道院を爆撃（2月15日）焼夷弾と重砲の雨を降らせ中世カトリックの聖地を破壊した。モンテカシノはイタリア中部におけるドイツ軍の拠点で、連合軍は5月にようやく同地を占領した。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▼昭和通りで農作業（2月28日）東京の岩本町交差点付近の旧中央植樹帯を利用した900坪の自給農園。隣組単位で前年6月、大根、インゲンなどを植えた。翌月、東京都は全都の戦時農園化をはかった。

共同通信社

▼戦時下の女性ファッション（2月）東京・築地のビル屋上で冬服の発表会が開かれた。有事即応の服が求められるとあって、ズボンは裾をしぼれば防空服になり、上着には火の粉や爆弾の破片よけのフードもつく。

松田正志／JPS

毎日新聞社

▲クェゼリン、ルオット島玉砕（2月6日）中部太平洋にホコ先を移した米軍の動きは急だった。6日間の奮戦のすえ、両島守備隊約4500人、軍属約2000人が全滅した。

▶トラック島全面敗北（2月18日）「絶対国防圏」を守る連合艦隊の基地だったが、米軍の前日来の大空襲で航空機270機、艦艇22隻を失い、ついに基地の機能を喪失した。

昭和19年2月

1（火）●仏の反独勢力がド・ゴール指揮下に統一。

2（水）●東京都と警視庁、大衆食堂を外食券専用に普通食堂には雑炊食堂への転換を指導。

3（木）●退蔵衣類は全国で二億万点余と衣類統制組合。

4（金）●文部省、中高大学の軍事教育強化策を発表。実戦即応の航空訓練や機甲訓練も教習。

5（土）●警視庁、重要工場の寄宿舎を資材盗用容疑で一斉取締り。包丁・小刀など二三万余点没収。

6（日）●警視庁、工場火災が一日一工場の割合で急増と発表（7日取締り強化を通達）。

7（月）●保健婦養成期間を一年六ヵ月に短縮と厚生省。

8（火）●文部省、女学生の「戦時基準服」を制定。

9（水）●文部省、中学の芸術科目を廃止し工作に変更。

10（木）●大本営、関東軍の南方転用を初めて下命（第一四師団パラオ、第二九師団グアムへ）。
●東野英治郎・東山千栄子らが俳優座結成。
●大河内伝次郎主演「あの旗を撃て」封切。

11（金）●初の技術院賞。合板の船舶材応用など二〇件。

12（土）●東京火災など三社、安田火災海上を設立。

13（日）●東京・板橋区で狂犬が防空訓練中の住民など三六人を咬む。餌不足で犬の野生化が深刻に。

14（月）●価格形成中央委総会、価格制度簡素化を決議。

15（火）●重要都市一一市で家屋の新築・増築禁止。

16（水）●間接税増税。化粧品・座布団は一二割の課税。

17（木）●文部省、教員不足で軍人などを無試験で採用。

18（金）●前日から米軍の空襲受け、トラック島の航空機・艦艇の損害甚大で基地機能が崩壊。

19（土）●国民登録を拡大。男子一二～五九歳の全員、女子は一二～三九歳の無職未婚者。

20（日）●大阪で徴用時に医師を動員して身体検査にあたらせる初の「徴用医官制度」創設と新聞に。

21（月）●東条首相、大臣では初めて参謀総長を兼任。

22（火）●交通緩和に都心二千二百余社の時差出勤決定。

23（水）●「竹槍では間に合わぬ」の記事掲載の「毎日新聞」を発禁処分（竹槍事件）。

24（木）●銀座松屋に翼賛会などの戦時生活相談室開設。

25（金）●閣議、高級享楽の停止、簡素な生活徹底など一五項目の決戦非常措置要綱を決定。

26（土）●海軍省、「人間魚雷」（後の回天）の試作を命令。

27（日）●内務・大蔵など各省で日曜出勤実施。

28（月）●日本出版会、存続雑誌を決定。時局誌七、写真報道誌八、大衆誌二、少国民誌四、娯楽誌五。

29（火）●米軍、ロスネグロス島上陸。ラバウルの日本軍は孤立。

影山光洋

▼「大陸打通作戦」実施へ黄河鉄橋復旧（3月25日）中国派遣軍は中国からの米軍の本土空襲阻止のため南北縦貫鉄道沿いに領地確保を計画、鉄橋を復旧させた。写真は破壊に失敗した米軍の爆撃機。

▲「雑炊食堂」開設（3月）東京都が百貨店や喫茶店などに外食券なしで利用できる店として設置。1杯30銭前後の雑炊のみ。11月に「都民食堂」と改称、420軒を数えた。写真は川崎の店。

▶灯火管制訓練（3月20日）警視庁が東京35区と立川市で実施した。午後7時の「空襲警報発令」の想定で、50分間明かりを外に漏らさないように、電灯などを暗幕でおおった（写真）。

毎日新聞社

▶米軍、中部太平洋パラオ島の連合艦隊基地を急襲（3月28日）不意をつかれた日本軍は油槽船を含む18隻と飛行機147機を失い、フィリピンのダバオに逃れようとした司令長官・古賀峯一大将らは行方不明、後に殉死と発表された。

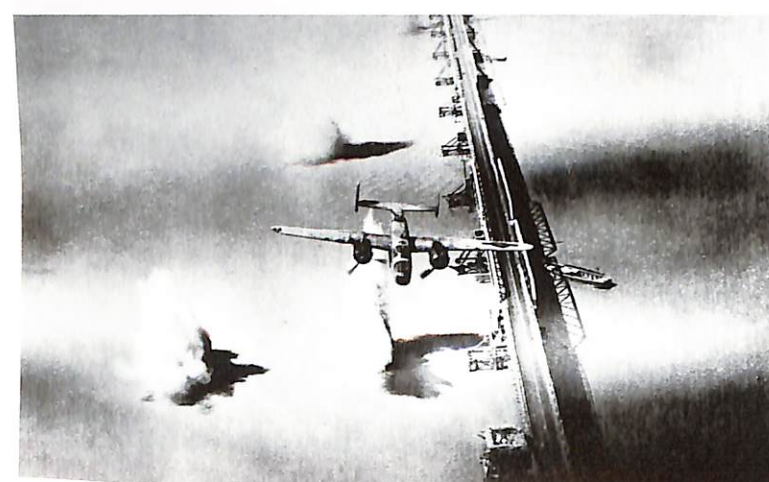
アメリカ国防総省／月刊沖縄社

宝塚歌劇団提供

▲宝塚大劇場の最終公演（3月4日）2月決定の決戦非常措置要綱に基づき、この日を最後に閉鎖。ファンを警官が抜刀して整理する騒ぎとなった。写真はフィナーレを飾った雪組公演「翼の決戦」。

毎日新聞社

▲インパール作戦開始（3月8日）ビルマ国境付近のインド領インパールに拠点を築き、英軍の反攻阻止を企図。峻険な山越えと300キロもの進撃は過酷だった。写真は雲南戦線を行く日本軍。

文殊社提供

昭和19年3月

1（水）●情実売り防止に野菜の共同責任販売を実施。

2（木）●厚生省、農村女性を挺身隊から除外と通牒。

3（金）●棺桶の配給統制開始。死亡届け時に配給券。

4（土）●宝塚歌劇団が、宝塚大劇場で戦前最後の公演（31日松竹少女歌劇団解散）。

5（日）●警視庁、都内の高級料理店八五〇店、待合四三〇〇店、バー・酒店二〇〇〇店を閉鎖。
●歌舞伎座・帝劇・京都南座など一九劇場休館。

6（月）●新聞の夕刊休止、朝刊は四ページとなる。

7（火）●「朝日新聞」の連載漫画「フクチャン」休載。

8（水）●大蔵省、アルミ材不足で錫合金の十銭・五銭・一銭硬貨の鋳造開始（11月1日紙幣に変換）。

9（木）●山本嘉次郎監督「加藤隼戦闘隊」封切。

10（金）●伊全土で反ファシズムのゼネスト決行。
●レコード「勝利の日まで」発売。

11（土）●料亭廃業で失職の芸妓らを共同作業場に動員。

12（日）●広島で女性工員製造の二五〇トンの木造船進水。

13（月）●第二次男子就業禁止実施で集金・出改札など六業種、一七万人の男子が転業と新聞に。

14（火）●情報局、不急旅行全面禁止、片道一〇〇キロ以上の旅行証明制導入を発表（4月1日実施）。

15（水）●神奈川県の箱根など五ゴルフ場開墾と新聞に。

16（木）●技術院、「創意工夫」公募報奨三〇一件を発表。

17（金）●物資海上輸送問題で陸海軍合同の御前研究会。

18（土）●女子挺身隊の対象を一四～二五歳から一二～四〇歳未満に拡大、強制加入になる。

19（日）●東京検事局、旅館従業員を物資不足の時に不注意と懲役刑つきの失火罪で起訴。

20（月）●軍需省、農水期になり電力制限を一部解除。

21（火）●大相撲広島場所中に横綱安芸ノ海が応召。

22（水）●蔵相、五日からの決戦非常措置実施で四億円の歳入減と発表。うち三億円は飲食税。

23（木）●鶏卵の最高価格が二～三割値上げ。

24（金）●国民学校を卒業し軍需工場で働く「産業豆戦士」第一陣八一七人が秋田から上野に到着。

25（土）●第三三師団長・柳田元三、第一五軍司令官牟田口廉也にインパール作戦中止を提言。

26（日）●大本営、四半期ごとの物資動員計画を策定。

27（月）●農商省、屋根など利用のかぼちゃ栽培を通牒。

28（火）●タバコ「鵬翼」が青一色刷りの包装になる。

29（水）●実業校は通年勤労動員で授業は夜間・日曜に。

30（木）●疎開者の家財買収を衣類・家具・什器に限定。

31（金）●連合艦隊司令長官・古賀峯一、パラオ島離陸後行方不明に（遭難死。海軍乙事件）。

毎日新聞社

梅本忠男／立命館大学国際平和ミュージアム提供

▲**東京中央郵便局が技能認定（4月）** 郵便物を区分函に分けてくくるまでの早さと正確さを競わせ、その結果で等級ごとに技能給を加算した。写真は国民学校卒の女子新入職員。

▶**旅行制限開始（4月1日）** 片道100キロ以上の乗車券購入には証明書が必要となり、急行列車を削減した。写真は爆風よけの土嚢でおおわれ混雑する東京駅。

毎日新聞社

◀**国民学校で学校給食実施（4月1日）** 六大都市の児童に、一人当たり1食米7勺（約100グラム）が支給された。写真は東京・深川で。支給米のおにぎりが1個ずつ配られた。

中日新聞社

▶**天皇陛下、閲兵（4月29日）** 天長節のこの日、東京の代々木練兵場に歩兵隊・騎兵隊・戦車隊などがそろい、閲兵。次いで乗馬・初雪に騎乗した天皇（中央）の前を、戦車などを中心に分列行進した。

◀**神奈川県の湘南海岸でタコツボ掘り（4月）** 前年来、横須賀海兵団などの予備学生が海軍演習場の茅ケ崎辻堂海岸で塹壕掘り演習をしていたが、これはその一環。タコツボとは一人用待避壕のこと。

田中義元／JPS

昭和19年4月

- 1（土）●国鉄、旅行制限実施。寝台車など全廃。●六大都市の国民学校で給食開始。●情報局、ジャズバンドの演奏を禁止。
- 2（日）●ソ連軍、ルーマニアへ進攻。
- 3（月）●法務省、神武天皇祭で模範囚八七人釈放。
- 4（火）●女子賃金改定。若年挺身隊員は月収五三円。●薬局での売薬が四五種類に限定される。
- 5（水）●東京の転廃業者で編成する開拓団が満州（中国東北部）に向け東京駅を出発。
- 6（木）●第三一師団、インド東部のコヒマを占領。
- 7（金）●大日本青少年団、東京—下関間の鉄道沿線千余キロの空き地にかぼちゃを栽培と決定。
- 8（土）●横浜区裁判所、失火は「戦力阻害」と実刑判決。
- 9（日）●熊谷市婦人会が少年飛行兵に家庭を開放。
- 10（月）●独軍、ソ連領オデッサから撤退。
- 11（火）●連合艦隊参謀長・福留繁らがフィリピンのゲリラに捕らわれ収容中と判明（12日救出）。
- 12（水）●警視庁、少女歌劇などレビューを禁止。
- 13（木）●巡査の採用年齢を一八歳に引き下げる。●黒澤明監督「一番美しく」封切。
- 14（金）●防空総本部、空襲時の身元確認のため身元票の携行（上着の胸に縫いつける）を通牒。
- 15（土）●中学生の間では「人生二五年」が流布と投書。●伊内閣に共産党のトリアッティ入閣。
- 16（日）●京都・知恩院が金襴や色法衣廃止と新聞に。
- 17（月）●中国派遣軍、大陸打通作戦の一環として京漢打通作戦を開始（～5月9日）。
- 18（火）●農商省、食生活充実のため代用食品課を新設。
- 19（水）●東京都、幼稚園の休園を通達し疎開を奨励。
- 20（木）●東京・上野駅で長距離客限定の五目弁当発売。
- 21（金）●警視庁、増産をはかるため軍需産業従業員の疎開禁止と、家族との別居手当支給を通達。
- 22（土）●連合軍、ニューギニア島北部に上陸開始（以後、「飛び石」作戦を実施）。
- 23（日）●徳島工専、日曜を全廃し習得年限を一年短縮。
- 24（月）●警視庁、多摩など野菜産地に出荷促進を通達。
- 25（火）●自動車燃料のガス用木炭の製造許可制を廃止。
- 26（水）●アカザなど野草の食べ方が新聞に紹介される。
- 27（木）●大蔵省、タバコの売り惜しみ業者に対する営業取り消しなど罰則規定を決定。
- 28（金）●米本土向け超重爆撃機「富嶽」の製造中止。
- 29（土）●農商省、天長節のこの日、国民学校全児童に菓子パン二個を無料配給。
- 30（日）●米軍、トラック島空襲、日本の海軍基地壊滅。

証言・あの日この日
神谷美恵子（30）

3月8日（水）〈飛行機はすぐそこまで来ているのに何という春が訪れようとしているのだ。死ぬ瞬間まで、人間は、この地上に与えられた生命の美しさと哀しさに酔って行こうとするのか。／歌おう、歌おう、生命の歌を、明日にでも、永久に黙さねばならないとしても、きょうは生命のかぎり歌うのだ。人生の持ち得る最高のものを歌うのだ……。／今朝はもう、このヴェランダの窓をあけて、暖かい陽ざしをこの机の上に浴びて、勉強している〉（神谷美恵子『若き日の日記』）

戦時中だというのに（だからこそ？）精神科医・神谷美恵子の日記は不思議な明るさに満ちている。彼女はこうも書く。〈何だかうれしくてたまらない。春の詩を口ずさんだり、リードを歌ったりしてみる。なぜうれしいのだろう。こうして生きているのがうれしい〉。（坪内祐三）

影山光洋

▲**進む東京の建物疎開（5月14日）** 閣議決定により7月末までに5万5000戸が強制的に取り壊されることになり、疎開が急がされた。写真は向島区（現・墨田区）吾嬬町。町会・隣組が総出で荷造りを手伝った。

▼**国民酒場開店（5月5日）** 東京都内104ヵ所。酒は一人当たり1合、ビールは瓶詰1本か半リットル入りジョッキ1杯までとした。午後6時から2時間営業。写真は銀座みゆき通りの築地国民酒場麦酒部。

「写真週報」

▲**皇太子明仁殿下、武運長久を祈る（5月4日）** 前日、学習院初等科5年の学友55人と、霞ケ浦の海軍航空隊を見学して同隊に宿泊。この日、古くから武神として崇敬される鹿島神宮に参拝した。

▼**八幡製鉄所で火入れ式（5月12日）** 所内の洞岡第2溶鉱炉で挙行、鉄鋼集中生産にはずみをつけた。式典には学徒勤労動員強化で配備された多数の学徒や徴用工も参列した（写真）。

新日鐵八幡製鉄所

▼**「大相撲後楽園場所」（5月7日）** 両国国技館を軍に接収されたため、夏場所を後楽園球場で露天興行。1日4時間、約40番以内で10日間とするなど制約も多かった。写真は大盛況の初日。

毎日新聞社

昭和19年5月

- 1（月）●文部省、野球・庭球両部の廃止を通牒。●情報局、戦時生活にうるおいを与えるためラジオの演芸・歌謡曲番組の強化決定。●大審院、配給の「幽霊人口」問題で故意に不正を見逃した町会長も詐欺幇助と新判断。
- 2（火）●高群逸枝の『婦人生活戦線』が発禁処分。
- 3（水）●国鉄、疎開用の小荷物取り扱い制限を緩和。
- 4（木）●大工・鳶職など第一回戦力増強技能競錬大会。
- 5（金）●東京に「国民酒場」一〇四ヵ所が開設。
- 6（土）●東京で初の満一九歳の徴兵検査実施。●インド政庁、ガンジーを釈放（二二ヵ月ぶり）。
- 7（日）●国技館接収のため後楽園球場で大相撲開幕。
- 8（月）●東京都、毎日三万五〇〇〇人を建物破壊に動員する帝都疎開工事挺身隊の結成発表。
- 9（火）●ソ連軍、クリミア半島を独から奪回。
- 10（水）●名古屋鉄道局に初の女性車掌が就業（7月1日東鉄の省線区間でも）。
- 11（木）●都下一八町村で二千余匹に狂犬病予防注射。
- 12（金）●相撲協会、相撲勤労報国隊の就業を許可。
- 13（土）●東京で供出銅像の撤去開始。西郷隆盛は存続。
- 14（日）●全国に農機具巡回修理班を結成と新聞に。
- 15（月）●文部省、学徒動員の報償金は授業料に転用、引率教員は学徒五〇人に一人など要綱決定。
- 16（火）●文部省、学校工場化実施要綱を全国に通達。
- 17（水）●地域別の女子挺身隊結成率が七％にとどまり、警視庁は再度召集状を発送。
- 18（木）●連合軍、伊中部の拠点モンテカシノを占領。
- 19（金）●岡山市で宮本武蔵三百年祭開催。
- 20（土）●自家用塩の製造が許可制から届け出制になる。
- 21（日）●南方軍総司令部の前線移転で、総司令官・寺内寿一がシンガポールからマニラに到着。
- 22（月）●京都府立医大の大堀孝男、リンゲル液の代用に海水利用と発表。
- 23（火）●東京初の疎開専用電車が京成上野駅を出発。
- 24（水）●厚生年金保険法公布（10月1日施行）。
- 25（木）●銀座の三越が商品不足で貸し衣裳部を新設。
- 26（金）●厚生省、発疹チフス急増でシラミ退治を奨励。
- 27（土）●中国派遣軍、湘桂・粤漢線打通作戦を開始。
- 28（日）●警視庁、工場従業員のため、昼食を午後二時までなど食堂の営業時間を延長。
- 29（月）●科学技術審議会、審議事項を軍事に限定。
- 30（火）●農商省、牛馬百数十万頭の動員要綱を通牒。
- 31（水）●第三一師団長・佐藤幸徳、占領地の維持困難と独断でコヒマ放棄、撤退を命令。

アメリカ国防総省／文殊社提供

◀マリアナ沖海戦で日本艦隊惨敗（6月19日）米軍のサイパン島上陸とともに、米機動部隊との太平洋戦争中最大の艦隊決戦を挑んだ。しかし、物量ばかりか飛行士の練度にも劣る日本軍は19日には崩壊、日本本土が米軍の空襲圏内に入った。

アメリカ国防総省／文殊社提供

▲中国基地のB29、本土初空襲（6月16日）深夜、八幡製鉄所をねらって成都発進の47機が来襲、北九州の5都市を爆撃した。この日以降、北九州を中心に各都市の軍需工場への空襲が繰り返される。

▼女子挺身隊員に教わる岸国務相（6月8日）工作機械展開催を前に、最新式の旋盤の動かし方を教わった。岸信介国務相（46）は東条内閣で商工相、18年新設の軍需次官（東条首相が軍需相兼任）に就任、軍需行政を担った。

「写真週報」

◀「回転器」（6月）文部省は2月から、国民学校でも実戦的訓練を積極的に行うことになった。回転器は飛行士養成に必要な運動器具で、子どもたちに人気があった。写真は代用の大八車での訓練。

毎日新聞社

Imperial War Museum／ユニフォト・プレス

◀ドイツがロンドンにジェット爆弾「V1」（6月15日）連合軍のノルマンディー上陸に報復、フランスのカレーから820キロの爆薬を積んで次々打ち出された。ロンドンではこの日死者6人、7月6日には2752人に達した。

昭和19年6月

- 1（木）●関西急行と南海が合併し近畿日本鉄道発足。
- 2（金）●東鉄、山手線に床面積拡大の戦時型電車導入。
- 3（土）●農商省、工場就業中の学徒を含め一七〇〇万人を草刈りや田植えに動員と通牒。
- 4（日）●連合軍、独からローマを解放。
- 5（月）●玉ノ海ら八〇人が久保田鉄工所に入所。
- 6（火）●連合軍、ノルマンディー上陸作戦を開始。●七歳未満の幼児に一日四二グラムの米の増配決定。
- 7（水）●都の配給米への大豆混合率が二割にと新聞に。
- 8（木）●内田信也農商相、御前会議で食糧払底を国民に知らせたいと発言。
- 9（金）●閣議、四億六千余万円の予算節約計画を決定。
- 10（土）●武蔵野・西武両鉄道、車両輸送がとどこおるため深夜電車による農村への屎尿運搬を開始。
- 11（日）●米軍、サイパン・テニアン・グアムを空襲（〜12日）、日本軍航空部隊壊滅。
- 12（月）●東京都、米の代わりに小麦粉の配給を決定。
- 13（火）●元教育科学研究会の城戸幡太郎・帯刀貞代ら治安維持法違反で検挙（民間教育運動が壊滅）。
- 14（水）●警視庁、舗装した歩道の戦時農園化を許可。
- 15（木）●割増金つき定期預金を受付。特等一万円。●独、ジェット爆弾「V1」ロンドンを攻撃。
- 16（金）●中国四川省の成都基地発進のB29重爆撃機、北九州を初めて空襲。●岡田啓介、海相・嶋田繁太郎に辞職を勧告。
- 17（土）●農商省、供出米の増産促進のため小作米納入を現物から代金制に変更と決定。
- 18（日）●中国派遣軍、湖南省長沙を占領。
- 19（月）●マリアナ沖海戦（〜20日）。日本海軍、空母三、航空機三九五を喪失する惨敗。
- 20（火）●米副大統領ウォーレス、重慶に到着（21日蔣介石と対日戦など意見交換）。
- 21（水）●雑誌が古紙類との引き換え販売になる。
- 22（木）●山陽本線明石駅で急行列車転覆。六八人死傷。
- 23（金）●北海道洞爺湖南岸で大噴火（昭和新山誕生）。
- 24（土）●東条・嶋田両陸海軍総長、二二日以来のサイパン奪回作戦の中止を上奏。
- 25（日）●八二種の下駄を七種に規格整理し価格統制。
- 26（月）●木戸幸一内大臣と重光葵外相が極秘に会談、終戦は「聖断」のほかなしで一致。
- 27（火）●衆院議員・尾崎行雄、不敬罪事件控訴審で無罪。
- 28（水）●熊本県、農村出身職員に農繁期の帰村を命令。
- 29（木）●軍需工場従業員は戦争保険加入と軍需省通牒。
- 30（金）●長崎造船所、特攻兵器「震洋」二〇〇隻完成。

20世紀博物館

物流史料館

輸送、運搬業は、〝時代の権力〟に握られていた

東京・千代田区

桑原茂夫

▲物流エリート、飛脚の持ちもの。左上は文書を枕の中へ入れて寝る盗難防止携帯枕。下は左から矢立て、タバコ入れ、関所通過の時刻表。

◀飛脚が雨の日に着た蓑。網がついているが、これは飛脚の特権の象徴でもあった。

この博物館の名にある〝物流〟という言葉が一般に使われるようになったのは、昭和四〇年代のこと。それまで、ものを流通させる仕事には、深く国がかかわっていた。鉄道、トラック、船舶など、運送手段も国が主要部分を握っていた。しかし四〇年代に入って、次第に民間が力を増し、その装いも〝物流〟と変えて、古くて新しいビジネスとして社会の表面に浮かび上がってきたのである。

この「物流史料館」も、もともとは半官半民だった大手運送会社・日本通運の〝通運史料室〟が発展したもの。日本通運本社ビルの中にある。

二〇〇平方メートルほどの広さしかない館内をぐるりと見てまわって、まず驚かされるのは〝物流〟の幅の広さである。ものの輸送・運搬にとどまらず、郵便や旅行など、情報や人の流通まで、ここでは〝物流〟の枠に入れられている。

事業主体や事業形態が似ていたからだ。しかもその事業主体はいつも、国あるいは限りなく国に近い権力と結びついていたのである。

たとえば、いわゆる五街道が整備された江戸時代に、街道を走っていた飛脚は、権力に支えられた、結構高いステータスを持つ運送業者だったのである。

戦時下は軍需優先だった

飛脚には、公的な文書を運ぶ「継飛脚」や徳川御三家などが特権的に利用していた「七里飛脚」などがあり、どれもその時代のトップと結びついた仕事で、大威張りで庶民に「どいた、どいた」と叫びながら走れる存在だった。

同じ運送業者でも、橋のない川で人や荷物を運んだ「川越し人足」とは、まるで格が違っていた。もっともこの川越しでも、町民よりは武士や大名の通行が優先されたというから、「川越し人足」が権力と無縁だったわけではないのだが。

そんな飛脚の実態は、この史料館に展示されている、彼らの厳選された所持品や時刻表などから、リアルに感じとることができる。所持品など相当上等なものである。書状入れ、弁当箱、箱枕（中に密書などを入れることができる）、矢立て（筆記用具）……、走るエリートだけあって、なかなか洒落ているのである。

ほかの時代の〝物流〟に関する展示物も、それぞれ鑑札や立派な道具など、権力に保護された仕事であったことを感じさせるものが少なくない。

太平洋戦争のような非常時においてはなおさら、権力が前面に出てくる。軍需物資の輸送は何よりも優先され、一般の生活物資は肩身の狭い思いをした。実際のところ、昭和一五年にはすでに「陸運統制令」と「海運統制令」が出て、〝物流〟はズバリ、国の直接的な管理下におかれていたのである。

まあ、それだけ〝物流〟は大変な仕事なわけで、江戸と大坂を結んだ菱垣廻船の模型や、日本通運の前身、内国通運が初めて用いたトラックの模型なども、その歴史的背景を感じさせるのであった。

▲戦時中の輸送に使われていたトラック。ガソリンがないから木炭で走った。中央がその燃料機関である。

●物流史料館
東京都千代田区外神田三－一二－九
日通ビル四階
☎〇三－五二五六－一三九一
JR秋葉原駅西口下車、徒歩三分
開館時間＝一〇時～一二時、一三時～一六時
休館日＝土・日曜日、祝日、年末年始、五月一日～二日、一〇月一日
入場無料

▲最初の鉄道に用いられたレールや、江戸時代の〝安全な旅行のための〟心得帳、北前船の模型なども飾られている。

ベストセラー
完璧な統制下で刊行された三島の処女作と太宰の代表作

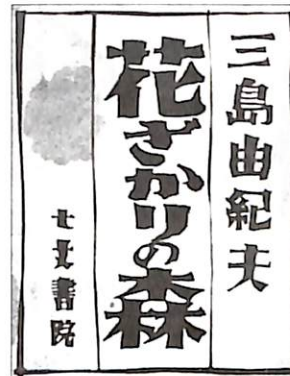
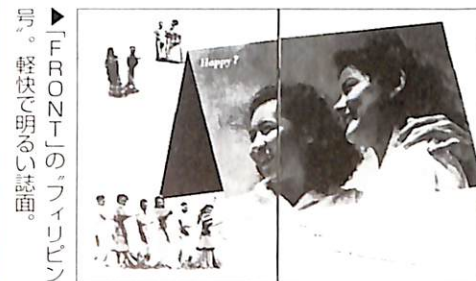
この年になると、戦時体制はさらに強化され、思想・信条も完璧な統制下に入っていった。七月一〇日には二大総合雑誌と目されていた「中央公論」「改造」両誌が、自発的廃刊を勧告されるにいたる一方、"軟弱"と予断を持たれた丹羽文雄ら作家たちの活動の場はまったく閉ざされてしまった。

そんな状況の中で、三島由紀夫の処女作品集『花ざかりの森』が、一〇月に刊行された（七丈書院）のは注目に値する。すでに昭和一六年に「文芸文化」九～一二月号で連載されたもの。連載当時、三島由紀夫は、まだ学習院高等科に在学中だった。三島自身は後に"何だか浪漫派の悪影響と、若年寄のような気取りばかりが目について仕方がない"と自著解説（新潮文庫）に記しているが、その才能の片鱗を見せた作品集である。

また、一一月には太宰治の『津軽』が刊行されている。版元の小山書店の「新風土記叢書」の一冊。小山書店の委嘱を受け、執筆のために帰郷したが、その本来の目的は、幼年時代の乳母との三〇年ぶりの再会にあったらしく、それが作品のクライマックスになっている。

ところで、戦時下の重苦しい雰囲気にもかかわらず、驚くほど明るく溌剌とした雑誌が国民の知らないところで刊行されていた。参謀本部による情報宣伝活動の一翼を担った「FRONT」（編集は東方社）である。海外に向けた情報宣伝誌であるだけに、鮮烈なイメージを印象づける、木村伊兵衛らの写真と、モンタージュなどを駆使した、原弘らの大胆で斬新なデザインによる、当時としては画期的なビジュアル誌であった。

なお太宰治は、前年にも『右大臣実朝』を刊行しており、戦時下でも、戦争にのめりこむことなく執筆活動を続けていた。

終戦の年には、「お伽草紙」を書き、七月、津軽に疎開するに際して、その原稿を出版社に預けたというから、戦時中、ほかの作家にはみられない活動ぶりだった。

▲三島由紀夫『花ざかりの森』（七丈書院）。　日本近代文学館提供（『津軽』も）

▶「FRONT」の"フィリピン号"。軽快で明るい誌面。

▶太宰治『津軽』（小山書店）。

スターと名場面
戦争遂行へのひたむきな情熱「一番美しく」「加藤隼戦闘隊」

東宝提供

▲「加藤隼戦闘隊」で若者を励ます加藤隊長役の藤田進（左から二人目）。

黒澤プロ／東宝提供

▲「一番美しく」で、周囲の人々も感心するほど責任感の強いリーダーを演じた矢口陽子（右から二人目）。

中宝提供

◀戦艦「長門」などを設計した平賀譲を描く「怒りの海」。平賀役には大河内伝次郎（右）が扮した。

この年は、まさに戦時下の緊迫感を伝えるものばかりで、黒澤明監督（三四）の「一番美しく」も例外ではなかった。

寮で生活をともにしながら軍需工場で働く女子挺身隊の奮闘ぶりを描いた作品で、一致団結してこのむずかしい局面を乗りきろうという訴えが、強く浮かび上がってくる。本来なら女学校へ行ったり、花嫁修業をしたりしながら青春を楽しむべき年頃の少女たちの、熱心で健気な働きは感動的でさえある。中でも、そんな少女たちのまとめ役を演じる、矢口陽子扮する渡辺つるの責任感あふれる仕事ぶりは、女性本来の強さを感じさせて、さらに感動的である。

そして少女たちの一致団結ぶりがすごい。"兵隊さんが頑張っているのだから"という思いや、男性の能力と比較されることへの反発などを通して、明確な目標、つまり戦争の勝利に向かってひたすら頑張るのである。そのためには自分の体の異変や肉親の死をも乗り越えようとする。戦争はそこまで個人を変えるということを実感させる映画でもある。

団結するという形は、「加藤隼戦闘隊」（山本嘉次郎監督）にも見られる。軍神といわれた"撃墜王"加藤建夫（藤田進）の伝記だが、加藤を隊長とする、戦闘機部隊の団結ぶりが感動的に描かれている。

「怒りの海」（今井正監督）も、軍艦の父といわれた平賀譲（大河内伝次郎）の伝記。平賀を中心に、強い海軍を作るプロセスを描いた。なお、この作品でも「加藤隼戦闘隊」と同様、円谷英二の特撮技術が冴えていた。

モノ語り'44
「松根油」「防衛食容器」「貝製じゃくし」涙ぐましい"窮余の一策"の数々

▶**自前で缶詰を作る**　非常用食品として缶詰の代わりに考えられた「防衛食容器」。陶製のふたつき茶碗の中に食品を入れ、中を真空状態にして密閉するというもの。ふたの内側にあるゴムのパッキングで密閉したのだが、ふたをして熱湯にひたしてから冷却し真空状態を得た。食べる時は、真ん中のポッチ部分を釘などで軽くたたき空気を入れて開封した。　埼玉県平和資料館蔵

◀**ガソリンの欠乏を救え**　戦争遂行のポイントとして、当初から南方の石油確保が問題になっていた。戦争も長引いてくると、石油確保もむずかしくなり、エネルギー不足は深刻度を増した。石油の代替品として「松根油」も浮上し、エネルギー不足を克服しようとしたのだった。松の根株を釜につめて加熱分解し、揮発分を冷却して、タール分と松根原油を回収する「乾溜」の方法で採取された。　埼玉県平和資料館蔵

▲**調理器具もプリミティブに**　「㊄定家庭必需品」のラベルつきで市販されていた、家庭用調理器具「貝製じゃくし」。おたまの金属部分は軍需用として徴収されたため、木製の柄についているのは、ほたて貝の貝殻である。ほかにも代用調理器具として、陶製のおろし器なども重宝がられた。　明治・大正・昭和戦争博物館提供

▶**万年筆という贅沢**　戦時中といえども、また戦地でも、筆記具は必需品だった。中でも万年筆は、鉛筆のように削る必要もないし、その場にインクがなくても使えるので、大変便利で貴重な筆記具だった。すでに昭和14年の貴金属統制令で、金のペン先は製造できなくなっていたが、写真の「パイロット万年筆」は、合成金属のペン先と、セルロイドの本体で、十分魅力的な製品になった。1本3円と高価だったが、それだけの実用価値はあった。　パイロット筆記具資料館蔵

▲**子どもの日用品も代用品に**　考えられるあらゆる資源は軍需用になっていて、民生用としては、ほとんど自己調達しか方法がなかった。子どもの日用品も同じで、ランドセルもこのような「竹製ランドセル」が使われた。　明治・大正・昭和戦争博物館提供

あまり効果のなかった空襲対策電球　太平洋戦争開戦とともに、しばしば灯火管制は実施されたが、昭和19年末頃から米軍の空襲が本格化すると、警報の有無にかかわらず、毎日夜10時以降実施されるようになった。もっとも、戦争末期には、爆撃機はレーダーを使っていたため、灯火管制の効果はあまりなかったと言われる。縦半分だけ塗料が塗ってある写真のものは、おもに商店などで使用され、暗い方を外側に向けて取り付けられた。　埼玉県平和資料館蔵

▲**タバコの箱も戦争一色**　すでに、開戦とほぼ時を同じくして発売されていた新しいタバコ「鵬翼」は、真珠湾攻撃の「華々しい戦果」を思わせるデザインで、好評だったが、昭和19年には、資源不足から箱も青一色刷りとなり、戦時の緊迫感をともなってあらためて発売された。しかし、みるみる余裕がなくなり、翌20年正月には発売中止となった。　埼玉県平和資料館蔵

人物クローズアップ

沢村栄治（二七）

ベーブ・ルースも脱帽した快速球 "伝説の投手"、東シナ海で戦死！

◀カメラマンの求めに応じて披露してみせた、沢村栄治のストレートの握り。
松田正志（3点とも） JPS

昭和一九年一二月二日未明、史上最高の快速球投手の名をほしいままにして日本のプロ野球草創期を駆け抜けた沢村栄治（陸軍兵長）が、二七年の短い生涯を閉じた。フィリピンに向け、沢村たちを乗せて東シナ海を航行中の輸送船が、米軍潜水艦の攻撃を受け、もろとも海中に没したのである。門司を出港した翌日のことだった。このフィリピン行きは、沢村にとって三度目の応召であった。

沢村栄治は大正六年二月一日、三重県宇治山田市（現・伊勢市）生まれ。その本格的な野球人生は、京都商業時代から始まった。創立まもない京都商業は、野球部を強化し、その頃京都の中等学校野球で最強を誇る平安中学（現・平安高校）に対抗しようとしたのである。

京都商業時代の沢村は、春の全国選抜中等学校野球大会に二度、夏の全国中等学校優勝野球大会に一度出場している。成績はいずれも不本意なものだったが、人々を驚かせたのが、キャッチャーミットを射抜くかと思われるような、沢村の速球であった。昭和九年夏の甲子園。沢村の投球をスタンドからじっと見ている人物がいた。読売新聞社運動部長の市岡忠男である。

甲子園の大会が終わってまもなく、沢村は、市岡の勧めで京都商業を五年で中退し、全米選抜軍を迎えるために結成された全日本のメンバーとなった。そして、まだ一七歳の沢村はその数ヵ月後、日本を代表する投手に躍り出る。

記録によると、全米選抜軍を相手にした、昭和九年一一月二〇日の沢村の投球内容は、被安打五、三振九、四球一である。七回、四番ゲーリッグのホームランで決勝の一点が入るまでは、被安打二、無得点という驚くべき内容。ベーブ・ルースをはじめとする空前絶後のメンバー相手の「スクールボーイ、サワムラ」の快投は、大ニュースとして、全米をも駆けめぐった。

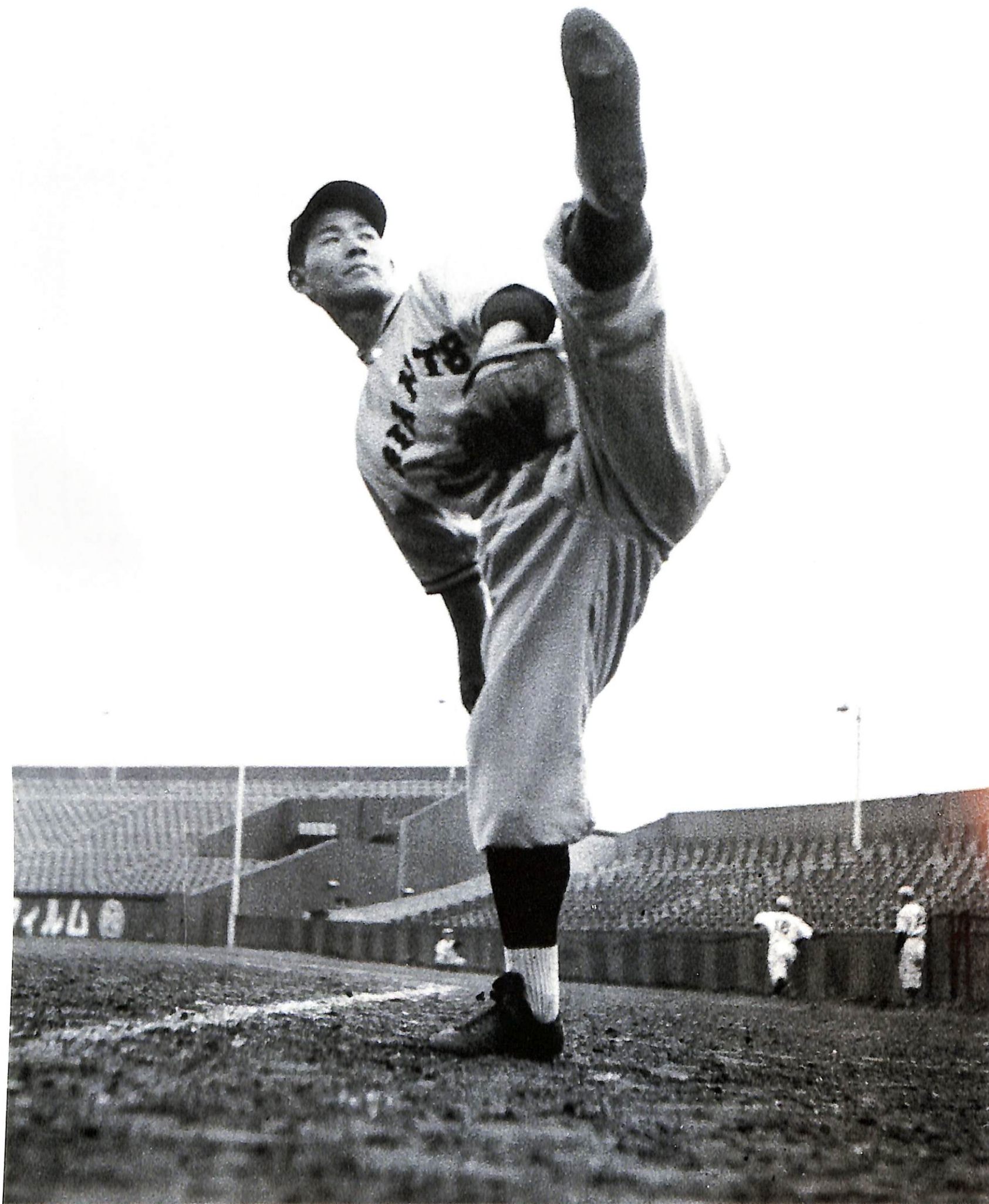
野球評論家の千葉茂氏は、一五年に東京巨人軍に入団した。沢村は最初の兵役を終え、巨人に復帰したばかりだった。

「天才肌というのか、我々にはちょっと近寄りがたい感じがありました。兵役後で全盛期をすぎてはいましたが、打者の手もとに来て伸びるボールはすごいもので、二段ホップして浮き上がってくるし、ドロップは頭の上から落ちてきました。あれはちょっと打てませんね」

千葉氏はこのように語る。

沢村は九年一二月に大東京野球倶楽部の結成に参加。昭和一一年一二月阪神との洲崎球場の三連戦など数々の名勝負を演じたが、一三年と一六年に応召、徐々に往時の力を失っていった。以下は、公式記録として残された沢村のおもな数字である。試合数一〇五、六三勝二二敗、投球回数七六五回三分の一、奪三振五五四、自責点一四八、防御率一・七四。

戦争という時代の中で翻弄され続けた天才・沢村栄治の、プロ野球における活躍期間は、正味約五年にすぎない。

▲「職業野球」発足以来の観客動員数を記録した昭和15年、年度優勝を決めた巨人軍のスター選手たち。左から川上哲治一塁手、白石敏男遊撃手、沢村、スタルヒン投手、千葉茂二塁手。

▲昭和15年5月初旬、復帰に向けて調整中の沢村栄治（同年4月除隊）。6月4日、対南海戦に登板したが、二年余のブランクのせいか、往年の球威にはおよばなかった。

決定的瞬間

キャパがまさにキャパになった！ノルマンディー上陸の〝特ダネ〟写真

一九四四年六月六日午前二時、二〇〇〇人の将兵を積んだアメリカ汽船「チェイス号」の船上に汽笛が鳴った。

午前三時、兵士たちにホットケーキ、卵、コーヒーなどの朝食が用意される。しかし、食べるものはほとんどいない。

午前四時、兵士たちは甲板に整列する。長い沈黙の中、東の空が少しずつ明るさを増している。

報道写真家ロバート・キャパ（三〇）はこの二〇〇〇人の兵士の中に、従軍記者の一人として参加していた。キャパが同行した米国陸軍の第一師団第一六歩兵連隊は、六四キロにおよぶノルマンディーの海岸線の中のオマハという海岸に上陸する。

上陸用舟艇（しゅうてい）が海岸線に到着する前にすでに銃声が聞こえていた。キャパが冷たい海の中に降り立った時、前進する兵士たちとともに、奇妙な刺（とげ）のような形をしたドイツ軍の遮蔽（しゃへい）物と、煙幕と砲弾におおわれた細長い海岸が見えた。

キャパは遮蔽物に隠れ、胸まで水につかってまわりの戦闘を撮影した。弾幕の中を両手で銃を支えて前進する兵、遮蔽物に隠れて動けない兵、同じ海には死体が浮かぶ。

報道写真史上傑作のひとつと言われているこの写真は、不鮮明でぶれている。人物の表情も鮮明ではない。背景のドイツ軍が設置した遮蔽物もぼんやりとして不思議なオブジェのように見える。「この時はまだ光が充分ではなかった」（ロバート・キャパ『ちょっとピンぼけ』、文春文庫）とキャパは書いているが、乳白色の空間に、戦争のもたらす苛烈な真実が広がっている。ノンフィクション作家・沢木耕太郎は、「写真は確実に歴史の瞬間に触れている」と述べて、キャパがまさにキャパになった写真だと評している。

キャパはなんとか海岸までたどり着くが、濡れた砂浜にくぎづけとなる。わずかな傾斜が身を守ってくれるだけで、オマハ海岸はノルマンディー上陸作戦中最も悲惨な状況を呈していたのだ。

海岸での状況を撮影し始めるとフィルムが切れた。撮影ずみと入れ替えるためにバッグから新しいフィルムを出すが、手が震えてどうしても入れ替えることができない。冷たい海につかって体は冷えきっている。潮は徐々に満ちてきて、前進するか海の中につかるかの選択をキャパに迫っていた。

キャパは海岸を捨てて船に引き返す。撮れなくなったコンタックスを抱えて銃弾に身をさらすのは無意味である。そう考えるのと同時に彼は、恐怖が自分をとらえ、戦線から離脱させたのではないか、と自問し始める。

一九三六年のスペイン内乱に、人民戦線側から報道写真家として従軍して以来、第二次世界大戦の北アフリカ、イタリアと戦場を駆けまわってきた彼も、この呪われたような海岸での出来事はジョークの対象にはならなかったようだ。

ノルマンディー上陸作戦は、連合軍総計二〇〇万人の兵士・軍関係者と、それに見合う膨大な物資をノルマンディーの海岸から揚陸し、一気にパリまで侵攻するという「史上最大の作戦」であった。準備は一年以上をかけて行われ、兵士と物資が集められた英国では、その重みで島が沈むのではないかと冗談がささやかれるほどだった。

作戦第一日目は払暁（ふつぎょう）から始まり、海岸の後方に約二万人の落下傘部隊がおろされ、海岸からは、五つの集団に分かれて七万人の兵士が上陸。合計九万人がフランスの地を踏んだ。

敵前上陸に運・不運はつきもので、キャパが所属した軍はオマハ海岸に殺到したが、第一陣三〇〇〇人は全滅という事態を招いた。

キャパはロンドンに帰るとすぐにフィルムを現像に出す。しかし、写されていた二本のフィルムは、特ダネに興奮した現像所の暗室助手の温度管理のミスで大半をダメにしてしまった。残ったカットはわずか十一枚。この十一枚の写真は戦争を記録した最も優れた写真として、人類共通の財産となった。

▶六月六日早朝、ノルマンディー沿岸コルビルシュールメールのオマハ海岸に上陸しようと、冷たい海の中を前進する米国陸軍兵士。

ロバート・キャパ／マグナム・フォト

美の出会い

「あと五分でも描いていたい」妻を、恋人をモデルにして戦没画学生の“最後の一枚”

◀無言館は、センターホールを軸に十字架の形をしている。収蔵作品・遺品は現在およそ300点。100点が公開されている。 楠田守

東京美術学校（現・東京芸術大学）の油画科を卒業して、郷里の熊本で中学の教師をしていた佐久間修（二九）は、父の家で妻と二人の子どもたちとともに、穏やかな日々をすごしていた。彼にとって不安の種といえば召集令状だけだった。それも検査の前に醤油を飲んで、なんとかその場を逃れることができたが、昭和一九年一〇月二五日、勤労動員のため生徒を引率して長崎県大村市に出かけていた折、B29の空襲に遭い生徒十数人とともに死亡した。

夫人の手元には夫人をモデルにした油彩の「静子像」と、横たわる裸婦のスケッチが残されていた。死はその人のすべてを消し去ってしまうが、画家の若々しく切ない思いは、キャンバスの上に永遠に輝いている。佐久間の六年後輩だった画家の野見山暁治氏（現・七六歳）は、「生きていれば、どんなにか絵を描きたかったことだろう」とつぶやく。

野見山氏は昭和一八年、卒業と同時に満州（中国東北部）に出征させられたが、肋膜をわずらって入院していた。同様に戦地に送られた同級生の多くは、その間に次々に無念の死をとげた。野見山氏は「慚愧に耐えなかった」と言う。「卒業までしか絵を描けないなんて、本当に切ない」と続ける。彼の記憶の中には、志なかばにして散っていった同級生や先輩たちの顔が次々に登場してくる。

昭和一八年八月、南西太平洋のニュージョージア島近海で、二四歳で戦死した中川勝吉は、不器用な重厚さで裸婦を描きながら、「タバコの吸い殻を拾って吸ってでもパリで暮らしてみたい。そして、いつか小学校の絵の先生になり、子どもたちと勉強したい」と語っていたという。

種子島出身の日高安典は、眼鏡の奥に強い意志をひそませていた青年だった。彼は「あと五分でも描いていたい」と言い残して出征した。その「裸婦」のモデルは、彼の恋人だった。日高はほかにも「八月のホロンバイルの夕暮れ」「ホロンバイルの風景」などの美しい風景画を残している。そのキャンバスの裏には「灼熱の太陽は　沈んでも中なか　其の光を失ひません……でも早　烈しい冬がひしひしと　おしよせて　居ます」と書かれている。ホロンバイルとは、現実にはないユートピアのような場所であろうか。日高は昭和二〇年四月、ルソン島の激戦地で戦死した。二七歳だった。

爽やかで気っ風のいい美校のスターだった中村萬平は、太い筆で荒々しいタッチの絵を描き同僚たちをあおった。彼は出征前に卒業制作のモデルとなった女性を連れて、故郷の静岡県浜松に帰った。その時、彼女は妊娠していた。中村は戦地から妻にあてて「お腹の赤はあばれるだろう。俺にかわって親孝行と赤を大事にそだてるのとを引き受けてくれ」とこまやかな愛情あふれる手紙を書いている。昭和一七年二月に男子が誕生するが、彼は翌一八年八月、愛児を見ることもなく華北で戦病死した。二七歳だった。

「私たちの若かった時代、憧れとは青年の生理を洗い流すような、精神を貫くような美しい強さがあった」と野見山氏は語る。そして「一生、絵を描いていきたいと願っていた若者には、誰をも説得できるような光を秘めた作品がひとつは残っている」と続ける。

◀佐久間修「裸婦」。鉛筆・紙、二七×二一・五センチ。 無言館提供

「無名のこれらの人々の声を伝えることは、あの時代をすごした私たちの責任ではないか」と考える野見山氏は、昭和四九年、NHKテレビ「祈りの画集」で、遺族の家を訪ね戦没者の無念の声を聞いてまわった。若くして亡くなった画家たちの灯火のように美しく揺らぐ作品の数々をみいだすにつけ、野見山氏はこれらを一堂に集められないかと思うようになった。この話を聞いた長野県上田市の信濃デッサン館の館主・窪島誠一郎氏が、遺族とともに消えてしまうかもしれない作品を救いたいと考え、「ぜひお手伝いさせてください」と訴えた。

さっそく野見山氏とともに窪島氏は、遺族を訪ねる旅を開始する。一方、美術館建設の資金を募る困難に直面することになった。こうして、上田市から信濃デッサン館の近くに土地を提供され、平成九年五月二日、「無言館」と名づけられた美術館が開館した。

「こういう美術館こそ、本当の美術館のような気がする」という野見山氏は、できるだけ多くの人が見に来てくれることを心から願っている

▲佐久間修「静子像」。油彩・板、27×21.5センチ。静子夫人は、「裸婦」とともにこの作品を大事に守ってきた。 無言館提供

空襲を避けて43万人が大移動！
ヘビもカエルもツツジの花も口にした
「学童疎開」の"悲惨"体験

▲昭和19年8月26日、縁故疎開、集団疎開に出発する子どもたちと残留組が別れの挨拶（東京）。 毎日新聞社

昭和一九年六月、サイパン島が陥落し、陸上基地から日本本土への米軍の空襲が可能となった。これを受け、政府は都会の国民学校初等科高学年の学童を、田舎に集団疎開させる方針に踏み切る。約四三万人が大移動させられたが、飢餓、ホームシックなど、戦時ならではの厳しい試練が学童たちを見舞ったのである。

子どもたちは旅行気分 親たちは悲痛な表情で

昭和一九年八月一八日、東京・麻布の南山国民学校（現・南山小学校）の校庭に、リュックサックを背負った子どもたちが次々と集まっていた。一見、遠足風景にも見えた。だが父母の姿が異常に多く、血液型が書かれた名札をつけ、防空頭巾を手にしているのが大きな違いだった。子どもたちの多くは修学旅行気分で、嬉々としているものも目立つが、親たちは対照的に悲痛な表情だった。学童たちは、集団疎開のため栃木県佐野市に向かうのだ。

この日、佐野に出発したのは三年生から六年生までの学童合わせて四八八人、引率教師一二人、合計五〇〇人。夕方、現地に到着した学童は、駅前で市長以下の歓迎出迎え式の後、宿舎になる宿屋と七つの寺院に分宿することになる。

この年六月にサイパン島が米軍の手に落ちるなど、日本軍の敗色がいよいよ濃厚となり、本土空襲の本格化は必至の情勢となっていた。政府は全国一三都市の学童（国民学校初等科の三年生から六年生まで）を、地方に疎開させた。縁故疎

「現場」を歩く

昭和新山

火山を守るため全財産をなげうった男の"記念碑"

山本徹美

▲昭和新山は、有珠山東麓にある溶岩塔で、塔の高さは約110メートル。現在も白煙を上げており、登山口付近には資料館、熱帯植物園などがある。 奥村健太郎

北海道壮瞥町の昭和新山を訪ねた。標高四〇二メートル。赤茶けた山腹の西側からは今も幾筋か湯気が立ちのぼっている。

昭和一八年末、畑地だったこの地域一帯が群発地震に襲われた。麦畑は次第に隆起する。

昭和一九年六月二三日午前八時一五分、丘は裂け、ついに噴火。さらに隆起は一気に加速、以後噴火と隆起を繰り返しながら「山」へと成長してゆく。

昭和新山の麓で土産物店「壹番館」を経営する阿野康春氏（六三）は小学四年生時、火口から直線距離で二キロの場所に母親と妹三人の五人で暮らしていた。

「当初は、水蒸気を噴き上げるだけの静かなものでした。激しかったのは七月二日午前零時の大爆発。空中に噴出された岩がぶつかりあって『ガチン、ガチン』とものすごい音をたて、火花を散らし、落下してくる。空襲よりも怖かった」

噴火による人的被害はなかった。

元郵便局長が残した記録

昭和新山の誕生については、三松正夫（故人）が精確な記録を残している。地元郵便局長だった三松は有珠山の調査に来た地震学者の大森房吉や火山学者の田中館秀三らを案内するうち火山の魅力に取りつかれる。彼の手による『昭和新山生成記録』は昭和二三年オスロ（ノルウェー）で開催された国際火山学会で高い評価を得、「ミマツダイヤグラム」と命名された。昭和新山見学コースの玄関口には「三松正夫記念館」が建っている。

館[illegible]畜産大の学生だったつ[illegible]出会って心酔、[illegible]て三松姓を継[illegible]〇）。[illegible]全財産をなげうったと聞きどんな人だろう、と興味を持ったのがきっかけでした」

昭和二一年四月、三松翁は火山部分約一八万坪（六〇ヘクタール）を、所有する農家一三世帯から計二万八〇〇〇円で買い取った。孫娘の三松泰子さん（五八）は、「農家の方から『どうにかして』と相談を受け、祖父としては研究を続けたいのと、硫黄や岩石の盗掘などから山を守りたいとの気持ちで決断したようです」と、言う。買収と同時に天然記念物指定の申請をし、二年後受理。昭和三二年には特別天然記念物に指定された。

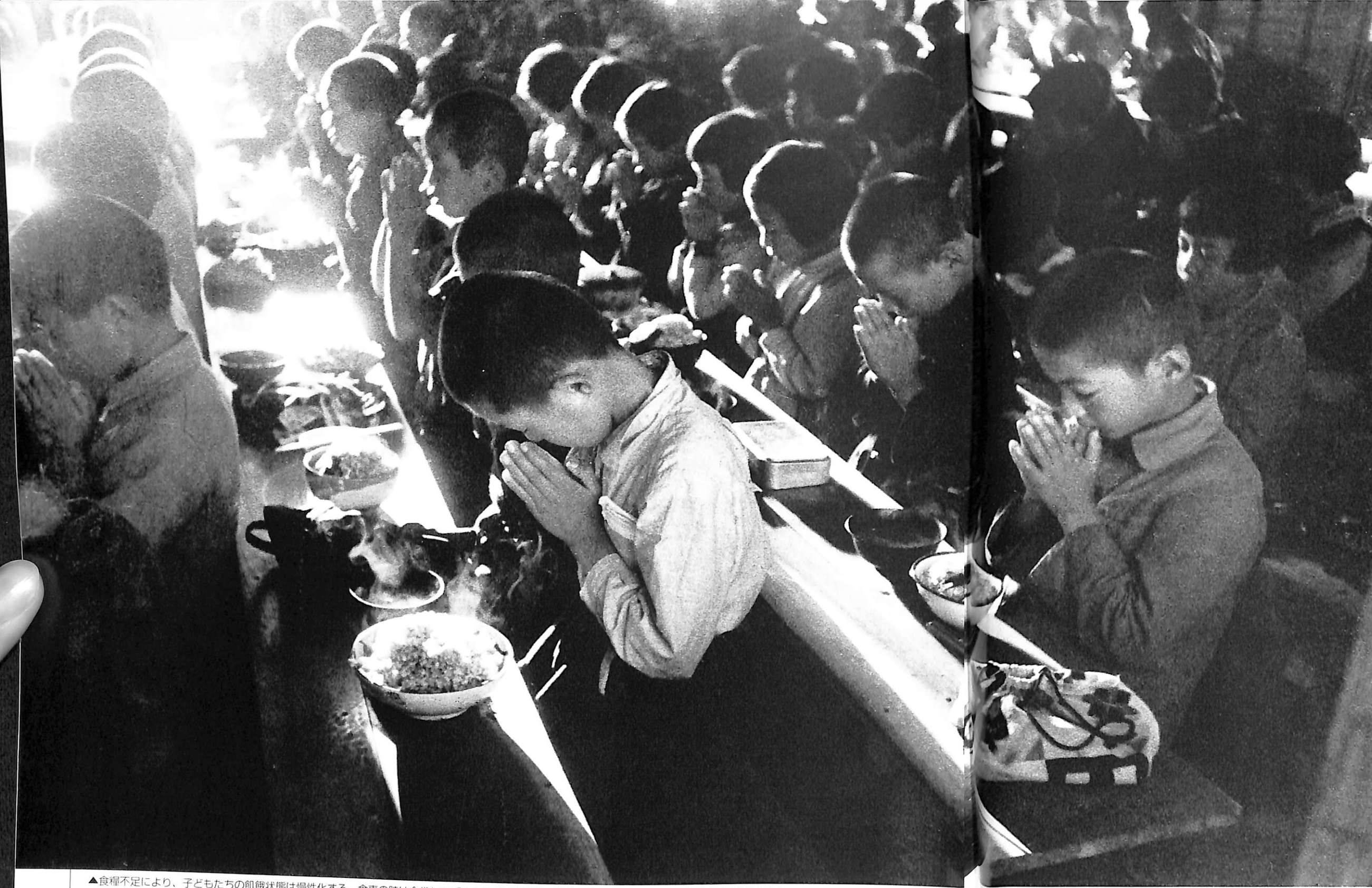
「そのため自分の土地でありながら、記念館さえ建てられなくなったんです」

三松館長によると、この「記念館」は「壹番館」の阿野社長から土地・建物の提供を受け、設立されたという。阿野氏は平成元年以来毎年二月に開催されている「昭和新山国際雪合戦」の発案者で、日本雪合戦連盟会長でもある。

「三松正夫さんは無欲で行動された。そこに私も感化されました」（阿野氏）

物事は長[illegible]で見る。「新[illegible]という[illegible]

▲畑地で大爆発と地盤隆起が起こった後、昭和19年9月までに溶岩円頂丘が形成された。 毎日新聞社

▲食糧不足により、子どもたちの飢餓状態は慢性化する。食事の時は合掌して、「箸とらば天地御代の御恵、君と親との御恩味わえ」と唱和させられた。　影山光洋

▲8月4日、東京からの疎開学童を群馬県の妙義町国民学校学童がのぼりを立てて歓迎。　毎日新聞社

開先のあるものは親戚、知人を頼り、縁故のないものが集団疎開の対象となったのだ。一九年の夏休みに、全国で合わせて四三万人の学童が親元から引き離され、田舎に疎開している。

当時、南山校の引率教師（訓導）だった田島信行氏はこう回想する。

「学寮と言われた宿舎は無住の寺、畳を入れてもらい、トイレを増設し、六〇畳近い本堂を仕切り、その端に布団棚や柳行李の置き場を作りました。佐野は地元の受け入れ態勢が非常によく、地元から毎月リヤカーいっぱいの食糧が寄付されるなど、比較的恵まれていた」

とはいえ、子どもたちが腹いっぱい食べられたわけではない。

葬式の際、墓場に供えた米団子が、参列者が帰った途端に姿を消してしまう、などは当たり前のことだった。

南山校の標準的な食事が寮日誌に記録されている。それによると「朝、麦飯、味噌汁、香の物。昼、じゃが芋、こんにゃく、数の子、海草。夜、すいとん。おやつ、じゃが芋」というものだった。

シラミの大群に襲われ お手玉の中身を口にする

世田谷区立祖師谷国民学校（現・祖師谷小学校）六年生だった全国疎開学童連絡協議会会長の阪上順夫東京学芸大名誉教授（当時一二歳）の疎開先は、長野県大町の木崎湖畔の宿屋だった。阪上氏も「食糧難、物資不足の中で、腹を減らし、シラミにたかられ、甘えたい親もいない集団生活でした。栄養失調で倒れた子どももいたし、集団脱走事件も起きました。何があっても疎開の時のことを思えば、楽だと思える。その後の人生のバネとなっていますが、それだけ最悪の出来事でした」と振り返る。

飢餓だけではなく、シラミの大群も容赦なく彼らを襲った。子どもたちは一列に整列させられ、前に並んだ子のシラミをひとつひとつ取りっこしたのである。

「面会病」という奇妙な病気も流行した。親が面会に来た翌日にかぎって、学童たちの多くが下痢をしたのである。原因は親が持ってきた食べ物を、無理して詰めこんだせいだった。

ひもじさをしのぐため、子どもたちは涙のにじむような創意工夫を発揮していた。お手玉の中身の煎った大豆に目をつけたのが、誰なのかははっきりしないが、しかし口コミでアッという間にはやっていった。こっそり袋をほどき、毎日一粒ずつ時間をかけて味わうのである

ウクレレ漫談の牧伸二（当時一〇歳）は最初千葉に行き、その後岩手に再疎開している。「食事の前にバンドをギューッと締めておくと、腹がいっぱいになったような気になるんです。満開のツツジの花を見つけ、しゃぶってみたら、甘酸っぱくてとてもおいしかった。友だちに言うと、庭一面のツツジが一夜にして丸坊主になっちゃいました」

イナゴやハチノコはご馳走だった。ヘビの皮を剥ぎ、カエルを捕まえ、はてはトンボをあぶって食べた、と語る疎開経験者の口が重くなることもある

その最たるものは「おかゆ調べ」だという。「おかゆ調べ」とは、腹をこわした学童の数を調べ、炊事場にそれを連絡することだ。しかしその実態は、子どもたちが相互に下痢を隠している子を摘発し、教師に告げ口をしていたのだった。おかゆを食べる子がふえれば、一人当たりの分け前がふえるためだった。

集団疎開は昭和二〇年秋まで一年余り続いた。学童疎開はどこでも悲惨だった。だが、その中でも最大の悲劇は「対馬丸」撃沈である。「対馬丸」は、一九年八月一八日夕、那覇地区の疎開学童・教師や、一般疎開者合計一六六一人を乗せ那覇港を出港した。鹿児島港をめざした「対馬丸」は、二二日夜、吐噶喇列島沖で米軍の潜水艦の魚雷攻撃を受け、海に沈んだのである。生存者は二〇〇人余り。犠牲者は学童七六七人、引率教師など二八人、一般の疎開者五五〇人とされているが、死者のうち二九人は、いまだに名前すら確認できない。

▶学寮の前に整列した東京仰高西国民学校（現・巣鴨小学校）の学童たち。同校は、長野県青木村と上田市に分散して疎開した。　豊島区立郷土資料館提供

フォト＋日録で再現する366日

▲「バンザイ・クリフ」の悲劇(7月) サイパンの戦闘では日本人住民約1万人が巻き添えとなった。島の北端マッピ岬に追いこまれた住民は米軍の投降勧告に耳をかさず、約5000人が断崖から身を投じた。

▶ヒトラー暗殺計画失敗(7月20日) 作戦会議場に爆弾が仕掛けられ、4人が死亡、7人が重傷を負ったが、ヒトラーは無事だった。前年のスターリングラード攻防戦敗北以来、総統に対する不信は募っていた。

毎日新聞社(2点とも)　キーストン

毎日新聞社

▲米軍グアム島上陸(7月21日) 日本軍の守備隊1万8000人が洞窟陣地などから頑強に抵抗したが、8月11日、火炎放射器攻撃などに耐えられず全滅。写真は夜間の突撃を敢行するしかなかった日本兵に向け、マイクを手に投降を呼びかける米軍の日本人捕虜。

毎日新聞社

▲小磯国昭・米内光政連立内閣誕生(7月22日) 東条内閣倒壊後に成立。首相は小磯(前列中央)。米内(前列右)は海相に就任し、本土決戦態勢の確立を急いだ。

▶「必勝生産」を血判で誓う(7月) サイパン全滅を大本営は「最後の攻撃」と発表。敗戦濃厚の中で7月26日付「写真週報」が「一億決死」として紹介した東京萱場製作所社員の覚悟。

「写真週報」

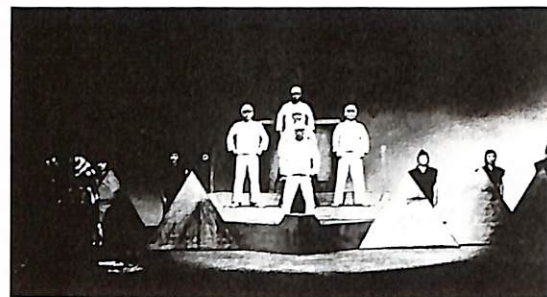
昭和19年7月

- 1(土) ●連合国通貨金融会議、米のブレトンウッズで開催。IMF設立など討議(22日合意)。●東京にウイスキー専門の国民酒場三一軒開店。
- 2(日) ●南方軍、インパール作戦の中止を下命。
- 3(月) ●ソ連軍、独最後の要衝ミンスクを奪回(24日独はソ連領から駆逐される)。
- 4(火) ●米軍、数百機で硫黄島・小笠原諸島を空襲。
- 5(水) ●煎った大豆と玄米にミカンの皮を混ぜた「完全防空食」の作り方を新聞が紹介。
- 6(木) ●エノケン主演、喜劇「三尺左吾平」封切。
- 7(金) ●閣議、沖縄県から一〇万人の集団疎開決定。●サイパン島陥落。四万人余の守備隊全滅、日本人住民の半数一万人余が死亡。
- 8(土) ●北九州地域で全国初の防空情報を放送。
- 9(日) ●福岡地検、「流言飛語」防止の検察隊を組織。
- 10(月) ●情報局、思想偏向を理由に改造社と中央公論社に「自発的廃業」を指示(両社とも月末解散)。
- 11(火) ●科学技術者を航空産業に重点配置と閣議決定。
- 12(水) ●ビール配給を統括する麦酒配給統制会社発足。
- 13(木) ●木戸内大臣、東条首相に辞任を提言。
- 14(金) ●牛乳代用に乳児用魚粉ビスケット配給と決定。
- 15(土) ●新規徴用者の給与を全国一律定額化と通牒。
- 16(日) ●江戸時代以来伐採禁止の三多摩地区の都有林五〇〇〇町歩を非常伐採、と新聞に。
- 17(月) ●学童集団疎開要領を発表。親は月一〇円負担。
- 18(火) ●東条内閣、総辞職。●京都の建物疎開決定。約三万五五〇〇坪。
- 19(水) ●文部省、女学校三年生以上の勤労学徒に深夜業の実施などを決定。
- 20(木) ●独でヒトラー暗殺計画が失敗。
- 21(金) ●米軍、グアム島に上陸(24日テニアン島に)。
- 22(土) ●小磯国昭・米内光政連立内閣が成立。
- 23(日) ●東京で初の空襲避難用炊き出し訓練実施。
- 24(月) ●「サイパン殉国の歌」(大木惇夫作詞、山田耕筰作曲)をこの日からラジオで歌唱指導。
- 25(火) ●播磨造船所、中国人労働者一六五人を雇用。
- 26(水) ●空襲時の言動を問われ八幡市の町会長に「流言飛語」で実刑判決。
- 27(木) ●「V1」迎撃に英のジェット戦闘機が初出撃。
- 28(金) ●包装紙不足でタバコのバラ売り開始。
- 29(土) ●防空警報下でも大衆食堂の営業継続をと通牒。
- 30(日) ●四国配電、変電所・発電所への女子配置を決定。
- 31(月) ●日本幼稚園協会が海軍省に飛行機献金。「日本幼児号」の名を希望。

証言・あの日この日
柳田國男(68)

4月5日(水)〈午前散歩、甲州街道に出て煙草を求める、仙川から蘆花公園まであるく。／処々梅咲きみち、麦はのび雲雀よく囀る。／新宿に出て見たれども煙草はなく、ただ行列の物すごき光景を見てかえる。古沢へ電話をかけ煙草をたのむ〉(柳田國男『炭焼日記』)

日本全国を旅してまわった民俗学者・柳田國男は、数えで70歳を迎えても、よく歩く。成城にある柳田の家から甲州街道までは直線距離でも3㌔はある。それをさらに仙川から烏山を経由して蘆花公園まで歩くのだから。この4日前(4月1日)にある会合で柳田と会ったジャーナリストの清沢洌は同日の日記(『暗黒日記』)で、〈柳田國男氏曰く、近頃の道傍の話しが非常に面白い。そういうものを書留めて置きたいが、僕にはその根気がなくなった〉と記している。　(坪内祐三)

田村茂

▲学校縫製工場(8月) 決戦非常措置要綱に基づいて5月に発表されて以来、女学校を中心に学校の工場化が全国に拡大。校舎に機械が持ちこまれ、その学校の生徒が女子勤労挺身隊員として働いた。

俳優座提供

◀俳優座が第1回試演会「皇軍艦」(8月5日) 東野英治郎・小沢栄太郎・東山千栄子らが出演、国民新劇場(築地小劇場)で翌日まで2日間2回興行。俳優座は2月10日に同人10人で結成されていた。

毎日新聞社

▼ビルマ戦線崩壊(8月3日) インパール作戦中止で苛酷な撤退戦が戦われた。北部の要衝ミイトキーナも、連合軍の攻撃により千余人が全滅した。

毎日新聞社

▶「防空服装」指導(8月19日) 防空強化日のこの日、警視庁は待避訓練を行い防空服装の徹底を呼びかけた。写真は東京・銀座の街頭で指導する係員。

▶上半身裸で働く学徒(8月10日) 学徒動員が通年化されるなど徹底され、中学校低学年、国民学校高等科にまで対象が拡大された。写真は名古屋陸軍造兵廠で働く中学生。

中日新聞社

昭和19年8月

- 1(火) ●砂糖の家庭用配給が停止される。●ワルシャワのユダヤ人ゲットーで武装蜂起。
- 2(水) ●軍機保護から撮影禁止を日本領土全域に拡大。
- 3(木) ●テニアン島守備隊、八〇〇〇人全滅。
- 4(金) ●国民総武装を閣議決定(竹槍訓練始まる)。●東京の学童集団疎開第一陣が上野駅を出発。●アンネ・フランク、ゲシュタポに逮捕される。
- 5(土) ●大本営政府連絡会議を廃止し、政府の発言力強化をねらい最高戦争指導会議を設置。●青森のねぶた祭、「戦意高揚」と八年ぶり復活。
- 6(日) ●西宮球場で戦前最後の公式戦巨人—阪神戦。
- 7(月) ●米「タイム」誌、サイパン島の日本人自決を「不可解・神秘的な行為」と論評。
- 8(火) ●鎌倉の海岸で海水浴と貸しボート禁止。
- 9(水) ●東京からの疎開学童に車内弁当用乾パン配給。
- 10(木) ●朝鮮で解放組織「朝鮮建国同盟」結成。●軍需省、物的国力の崩壊認める報告書作成。●米空軍、サイパンとテニアンの基地使用開始。
- 11(金) ●グアム島守備隊、一万八〇〇〇人全滅。
- 12(土) ●八戸市で海猫の堆積糞を肥料用に採取開始。
- 13(日) ●曹洞宗、「怨敵退散」を祈願する般若心経一〇〇〇万巻の街頭写経運動を開始。
- 14(月) ●米政府、電気掃除機など家電生産再開を許可。
- 15(火) ●軍需省、ダイヤモンドの買い上げを開始。
- 16(水) ●ロケット推進の特攻機「桜花」の試作開始。
- 17(木) ●輸送力確保に地方線休止し資材転用を決定。
- 18(金) ●都資源回収連盟が髪の毛を回収と新聞に。
- 19(土) ●最高戦争指導会議、南方で米軍撃滅を主とする「今後採るべき戦争指導大綱」を決定。
- 20(日) ●B29、九州北部から中国地方西部に来襲。
- 21(月) ●米英中ソが米のダンバートン・オークスで会議。国際連合設立を討議(～10月9日)。
- 22(火) ●鹿児島沖で沖縄の疎開船「対馬丸」が米潜水艦により撃沈。児童ら一三五〇人死亡。
- 23(水) ●集団疎開学童への雑誌優先配給を決定。
- 24(木) ●農商省、ゴム靴修理の機構整備を通達。
- 25(金) ●連合軍、パリを解放。ド・ゴール凱旋。
- 26(土) ●こんにゃくから飛行機用のり製造と新聞に。
- 27(日) ●能楽五流派を統合した能楽師協会設立。
- 28(月) ●官庁の第一・第三日曜日の全員出勤決定。
- 29(火) ●神奈川県警察部、「不良工員」を窃盗・徘徊などで一斉取締り、五〇人検挙。
- 30(水) ●軍需省、「鉱山突撃隊」の結成を命令。
- 31(木) ●米軍、小笠原諸島を空襲(～9月2日)。

毎日新聞社

▲学徒兵の卒業式（9月24日） 18年9月21日に徴兵猶予停止で仮卒業・入隊した学生の卒業式が各学校で行われたが、前線の多くの学徒兵は出席できなかった。写真はこの日卒業式を終えた早大生。

中野道義／中野美重提供

▲プロ野球、戦前最後の優勝（9月26日）各チームから応召者が続出したため、秋のリーグ戦は中止され、9月9日から11日の日本野球総進軍優勝大会が、戦前最後の試合となった。写真は春夏通算で年度優勝した阪神。

▼「忠犬ハチ公」も回収（10月12日）金属回収は9月に入るとアルミニウムなど鉄・銅以外の家庭製品にまでおよんだ。この日、東京・渋谷駅前のハチ公も回収されることになり、名残を惜しむ駅員らがお別れ式を行った。

毎日新聞社

CORBIS-BETTMANN／PPS

◀つかの間の安らぎ（9月）サイパン、テニアンを手中にした米軍の最前線に、米国慰問協会はボブ・ホープ、マレーネ・ディートリヒなど派遣し、兵士を慰問した。写真はボブ・ホープの公演。

▼沖縄大空襲（10月10日）米艦載機約1400機が南西諸島に来襲、沖縄本島は大きな被害をこうむった。なかでも那覇市は集中的な空襲をあび9割が焼失、壊滅的打撃を受け、死傷者は785人にのぼった。

月刊沖縄社

昭和19年9月

1（金）●六大都市の学校給食がパン食のみになる。

2（土）●大本営参謀・津野田知重、倒閣企図容疑で逮捕。●米、独を農業国とする戦後処理案を発表。

3（日）●高野山電鉄で脱線転覆事故。一七五人死傷。

4（月）●最高戦争指導会議、日ソ中立条約存続交渉で広田弘毅の派遣を決定（18日ソ連拒否）。

5（火）●山口県大津島に人間魚雷「回天」基地設置。●列車・自動車での家財道具輸送が禁止される。

6（水）●後楽園球場の全面接収が決定される。

7（木）●中国雲南省の拉孟日本軍守備隊、全滅（14日騰越守備隊も）。●横浜市、竹槍訓練中に男性が女性に接触しないよう町内会に通告。

8（金）●独、「V2」ロケットでロンドンを攻撃。●杉山元陸相、風船爆弾で米本土を爆撃する気球連隊の臨時動員を指示。

9（土）●関門海底トンネルの複線運転始まる。●日本野球総進軍優勝大会（最後のプロ野球）。●ド・ゴール首班の仏共和国臨時政府樹立。

10（日）●東京都、百貨店などに総合配給所を開設。

11（月）●在郷軍人会、全国一斉に防衛隊結成式を行う。

12（火）●東京の学童集団疎開の計画輸送が終了（総計二三万五〇〇〇人）。●米第一軍、ドイツ南西部に初めて進攻。

13（水）●疎開学童の食費の政府補助を二五円に増額。

14（木）●三菱化成、ロケット発射薬「K剤」の増産決定。

15（金）●米軍、ペリリュー、モロタイ両島に上陸。

16（土）●谷野せつ、初の女子労務監督官に任命される。

17（日）●米軍、パラオのアンガウル島に上陸開始。

18（月）●勧銀、愛知・福島など農工銀行五行と合併。

19（火）●徴用機帆船を五〇トンから一五トン以上に拡張。

20（水）●大日本婦人会、傷痍軍人の結婚斡旋などを各支部に指令。

21（木）●米軍艦載機四〇〇機がマニラ方面を空襲。

22（金）●野菜出荷促進のため国鉄運賃を七割引き。

23（土）●東鉄、疎開学童への冬物衣料輸送を開始。

24（日）●早大で卒業式。応召の仮卒業者も軍服で出席。

25（月）●勧銀、遊資金吸収のため「福券」を売り出し。

26（火）●閣議、家庭金属製品回収を決定。アルミニウム、錫などが対象の根こそぎ動員。

27（水）●海軍、九州・沖縄の航空基地拡充整備を発令。

28（木）●情報局、美術公募展を禁止。二科展など中止。

29（金）●連合艦隊司令部、横浜の慶大日吉分校に移転。

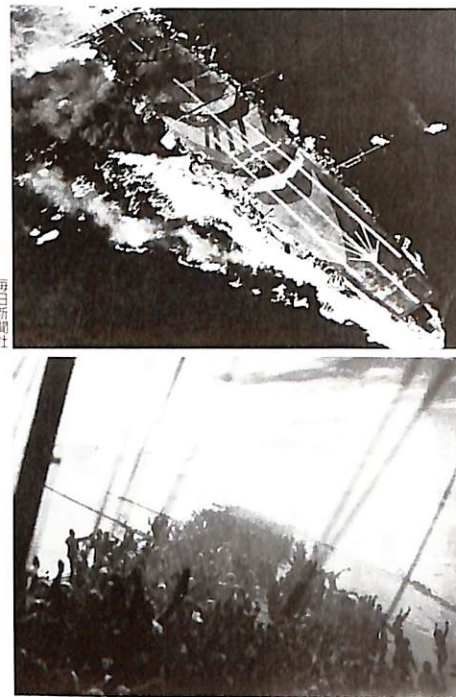
30（土）●狂犬病流行で東京の畜犬の他県出入り禁止。

◀帰ってきたマッカーサー（10月20日）マリアナ諸島を次々に攻略した米軍は、フィリピン中部のレイテ島東岸で、日没までに6万人が上陸に成功。撤退時の「アイ・シャル・リターン」の約束をはたしたマッカーサー（中央）は、近づいたルソン島攻略を前に、移動放送局から「私のもとに団結せよ」とフィリピン国民に呼びかけた。

アメリカ国防総省／文殊社提供

▼レイテ沖海戦（10月24日）海軍は総力をあげて米軍との決戦を挑んだ。「大和」などを率いる主力の栗田艦隊は、航空支援のない4日間の戦闘で米軍の航空機と潜水艦の攻撃に敗れ、空母・戦艦など30隻を失った。写真は沈没直前の戦艦「武蔵」。

アメリカ国防総省／文殊社提供

▼代用ガソリンも登場（10月23日）石油不足が深刻化する中で農商省は、松の根から採取する松根油をガソリンの代用に決め、その増産を呼びかけた。写真は新潟県の松根採掘隊。

▶連合艦隊壊滅（10月25日）小沢艦隊はおとりになり、栗田艦隊のレイテ湾突入を助けたが空母４隻を失い連合艦隊は壊滅。写真右は空母「瑞鳳」。写真右下は空母「瑞鶴」を退去する乗員。

毎日新聞社

毎日新聞社

昭和19年10月

1（日）●海軍、特攻機「桜花」の第七二一部隊を編制。

2（月）●ワルシャワ蜂起軍、独に降伏。一五万人死亡。

3（火）●大日本体育会、農民体操を発表。

4（水）●軍人援護会、日清戦争以来二人以上の戦死者を出した「軍国の家」表彰者二〇七二人を発表。

5（木）●玄洋社創始者、頭山満、死去。享年八九。

6（金）●二科会解散（以後、彫刻家協会など解散）。●一月以来の都下の腸チフス・パラチフスの発生率が平年の三～九倍と判明。

7（土）●米強制移住局、収容邦人四三一人死亡と発表。

8（日）●山下奉文第一四方面軍司令官、マニラに着任。

9（月）●タバコ七種の製造中止、「朝日」「のぞみ」発売。●近畿から東北で台風被害。一〇三人死亡・行方不明、二〇〇〇戸全半壊。

10（火）●米軍、南西諸島空爆。那覇市は壊滅的被害。

11（水）●ソ連軍、東プロイセンでドイツ国境を突破。●鉄道省、貨物列車増発し旅客列車削減。

12（木）●B29、サイパンに進出（本土が射程内に）。●東京・渋谷駅前の「忠犬ハチ公」像を回収。●台湾沖で日米航空戦開始（～16日）。

13（金）●九楽団一〇〇人が軍需生産音楽報国隊を結成。

14（土）●ジャワ回教徒連合会、日本軍への協力を決議。

15（日）●三島由紀夫の処女小説集『花ざかりの森』刊行。

16（月）●特別志願兵令改正、一七歳未満の志願を許可。

17（火）●「比島・台湾沖大殲滅戦祝賀」で国民酒場への酒の配給倍増（～19日）。

18（水）●大本営、捷号作戦（フィリピンが決戦場）下命。

19（木）●大本営、台湾沖航空戦の戦果を「米空母一一隻撃沈」などと発表（実際は撃沈なし）。

20（金）●米四個師団、レイテ島東岸に上陸。●大西瀧治郎、第一航空艦隊司令長官に就任し、神風特攻隊の編制を下命。

21（土）●東京に日本荷造会社設立。疎開の便をはかる。

22（日）●靖国神社臨時大祭招魂式への遺族の上京中止。

23（月）●農商省、軍需燃料用に松根油の大増産決定。

24（火）●レイテ沖海戦。栗田艦隊「武蔵」など主力喪失。

25（水）●レイテ沖海戦で神風特攻隊五機が出撃。

26（木）●翼賛会、芋類五〇億貫生産の食糧対策発表。

27（金）●警視庁、狂犬病防止のため野犬買い上げを決定。成犬一円、子犬五〇銭。

28（土）●陸軍省、「おが屑うどん」研究者らを表彰

29（日）●東京弁護士会員五十余人が省線電車を清掃

30（月）●食糧営団、高粱の二割混合米の試食会を開く

31（火）●東京・横浜・関東三ガス会社の合併発表

◀**東京空襲(11月24日)**マリアナ諸島のグアム、テニアンなど5ヵ所に空軍基地を開設した米軍は、111機のB29で東京郊外の中島飛行機工場などを空襲。この日を皮切りに空襲は本格化した。写真は空襲警報で待避壕に走る都電の乗客。

月刊沖縄社

▼**相撲協会、カップを献納(11月13日)**飛行機や電気機器の重要な材料となる銀の回収が行われていたが、相撲協会はこの日、力士や役員所有の優勝杯・楯など、76点、236キロを後楽園の土俵に並べ献納式を行った。

毎日新聞社

▼**B29の中国配備を歓迎(11月)**打通作戦によって衡陽、零陵、桂林の米空軍基地を攻略したが、成都などのB29は健在で、中国からの日本本土の空襲は活発化した。写真は米兵らを歓迎する蒋介石主席夫妻。

月刊沖縄社

昭和35年5月撮影

▲**松代の大本営着工(11月11日)**「絶対防衛圏」に米軍が迫りつつあった18年末頃、本土空襲を危惧した政府は、天皇、参謀本部、政府機関の移転を決定。総延長1万3000メートルの地下トンネルを、朝鮮人労働者などを使い突貫工事。終戦までに7割が完成した。

毎日新聞社

▼**空母「信濃」竣工(11月19日)**「大和」型戦艦を改造したもので、公試排水量6万8060トン、全長266メートル、最高速力27ノットと世界最大の空母だったが、11月29日、潮岬南東で米潜水艦の魚雷4本により撃沈された。

毎日新聞社

昭和19年11月

1(水)●B29、東京上空を初の偵察。空襲警報発令。
●北海道の乾魚闇売買で一九〇〇人取り調べ。
2(木)●早大生二一一人が軍事教練に代え稲刈りで査閲を受ける。
3(金)●太平洋岸四二地点から米に風船爆弾発射。
4(土)●警視庁、旅客自動車会社統合要綱を発表。保有台数一〇〇〇台以上が基準。
5(日)●東京の成女高女四年生全員が「火薬原料に」と毛髪を献納。
6(月)●東京区裁判所、一個八銭の腐敗コロッケを五四銭で売った闇業者に懲役一年の実刑判決。
7(火)●米大統領選でルーズベルトが史上初の四選。
●ゾルゲ事件(16年)のゾルゲと尾崎処刑される。
8(水)●小磯首相、「レイテこそ天王山」と談話発表。
9(木)●漫画映画「フクチャンの潜水艦」封切。
●山下奉文司令官、レイテ作戦即時中止を具申。
10(金)●南京政府主席・汪兆銘、名古屋で死去。
11(土)●長野県松代町で大本営地下壕の工事開始。
12(日)●陸軍初の特攻隊万朶隊がレイテ湾に出撃。
13(月)●日本野球報国会、プロ野球の休止を声明。
●相撲協会役員・全力士が銀製品供出式。
14(火)●関東ミシン商業組合が結成され、不足しているミシン針の配給制実施と新聞に。
15(水)●主要都市で老人・幼児・妊婦の疎開開始。
16(木)●陸軍のペニシリン研究、抽出に成功。
17(金)●南方軍司令部がマニラからサイゴンに移転。
18(土)●横浜・広島など六市で間引き疎開実施と告示。
19(日)●世界最大の空母「信濃」が竣工(29日呉に回航中、米潜水艦の魚雷攻撃で沈没)。
●兵庫県の山陽本線で列車衝突。九五人死傷。
20(月)●米艦隊泊地へ特攻艇「回天」による初の攻撃。
●甘さが砂糖の一〇〇倍の紫蘇糖の配給開始。
21(火)●B29八〇機が北九州を空襲。
22(水)●文学報国会が「日本農村の歌」入選作発表。
23(木)●都のボロ回収が二二万貫で目標突破と新聞に。
24(金)●B29一一一機、東京を初めて本格的に空襲。
25(土)●雑炊食堂を予約制の「都民食堂」と改変。
26(日)●台湾高砂族出身兵らの薫部隊が四機に分乗、レイテ島の飛行場に強行着陸をはかる。
27(月)●東京で火薬原料用に座布団綿の回収を開始。
28(火)●一〇割完納農家に酒一升など米供出奨励特配。
29(水)●東京都、空襲に備え国民学校初等科の授業短縮(午前一一時までに帰宅)実施。
30(木)●B29、東京に初の夜間レーダー照準爆撃。

気象庁提供

◀▲**東南海地震(12月7日)**M8.0の大地震が東海地方を襲い、愛知県の軍需工場の3割が壊滅、死者は998人にのぼった。新聞が「被害軽微」と10行ほど伝えただけで国民には知らされなかった。写真左は津波で破壊された尾鷲の市街。上は崩壊した四日市の製網工場。

中日新聞社

◀**風船爆弾(11月3日)**和紙製気球に焼夷弾や爆弾を吊るし、偏西風にのせて米本土を攻撃するもの。9300個のうち1割が到達したが成果はなかった。写真は九州で行われた製品試験。

西日本新聞社

▼**にぎわい消えた銀座通り(12月)**商店や劇場・映画館などの閉鎖と、4度にわたる東京の空襲によって、都電の停留所をのぞく銀座の人通りは少なかった。写真は銀座4丁目の交差点。

木村伊兵衛

朝日新聞社

▲**日劇も転身(12月)**3月の「高級享楽の停止」により日劇はほかの劇場とともに閉鎖、軍に接収され、9月頃からは風船爆弾の生産工場などになった。写真は昼休みにひなたぼっこを楽しむ女子勤労挺身隊員。

▼**特攻隊の出撃を聞く女学生(12月17日)**陸軍特攻隊の護国隊が12月7日レイテ湾の米軍艦船に突入。日本放送協会は出撃の模様を、この日実況中継形式で録音放送した。写真は福岡の九州飛行機工場でラジオを聞く女子勤労挺身隊の女学生。

西日本新聞社

昭和19年12月

1(金)●古紙と引き換えのちり紙特配を実施。
2(土)●元巨人の投手・沢村栄治、東シナ海で戦死。
3(日)●一世帯二個の衣料疎開制限を撤廃、と新聞に。
4(月)●次官会議、年末年始の休暇廃止を申し合わせ。
5(火)●技術院総裁に「八木アンテナ」の八木秀次就任。
6(水)●高千穂降下部隊四七四人、レイテ島に降下。
7(木)●東海地方を中心にM八・〇の地震。九九八人死亡(東南海地震)。
●フィルム欠乏で七三一館に映画配給停止。
●木下恵介監督・田中絹代主演「陸軍」封切。
8(金)●大本営、過去一年の米英軍戦死者は日本の二倍弱の三十万四千余人と発表。
9(土)●内務省、朝鮮・台湾人の渡航制限改廃など協議。
10(日)●東京都、ペストなど伝染病予防にネズミ撲滅運動実施。各世帯に猫いらずを配布。
11(月)●都、重要産業従事者の疎開禁止方針を決定。
12(火)●「一億総神拝」の日。全国一斉に伊勢神宮遥拝。
13(水)●B29八〇機、名古屋を初の本格的空襲。
14(木)●米穀供出奨励金を発表。一石当たり四〇円。
15(金)●大阪市交通局、女子運転手の養成開始。
16(土)●独軍、西部戦線で戦車軍団先頭に大規模反攻(バルジ作戦)開始。米軍の防衛線を突破。
17(日)●軍需省、飼い犬強制供出を決定(大は三円、小は一円)。毛皮は飛行服、肉は食用に。
18(月)●陸軍、練習機は一〇〇㍑、新鋭機八〇㍑などアルコール燃料使用の規制実施。
19(火)●第一四方面軍、第三五軍にレイテ地上作戦の中止と、永久抗戦、自戦自活を命令。
20(水)●正月用餅の小包郵送を二月末まで停止。
21(木)●ラジオで「爆音による敵機の聴きわけ方講座」。
22(金)●灯火管制中の漏光に防空法違反で罰金刑。
23(土)●熊本師団管下軍用犬組合連合会が発会。鹿児島県枕崎に「牧犬場」を開設。
24(日)●大本営と一四方面軍、比島持久戦方針で合意。
25(月)●茨城県南部に「メリィXマス東京プレゼント」の文字入り焼夷弾投下される。
26(火)●米軍のサイパン放送開始で日本の各放送局は妨害電波を発信。日本国内での受信を妨害。
27(水)●政府、戦死者遺児への育英費給付を発表。
28(木)●飛行機木製化のため木材増産運動推進を決定。
●天理ほんみち事件の大西愛治郎に無期懲役。
29(金)●乾物の配給価格値上げ。海苔は平均七割。
30(土)●世界最大の特殊潜水艦「伊号400型」完成
31(日)●上野動物園で食糧増産に家畜を飼育と新聞に。

我楽多市

流行語 戦争標語もヒステリックに

「鬼畜米英」。戦争中には戦意高揚のための歌や標語が次々に作られた。「鬼畜米英」は昭和一九年に使われた標語で、「撃ちてし止まむ」(一八年)などと並ぶ代表的な戦争標語のひとつ。開戦前や開戦直後には「米英撃滅」と叫ばれていたから、戦局の悪化とともに標語もエスカレートし、ヒステリックになったことがわかる。

「お便所組」。女学生が動員された工場では、機械の故障が多く、作業のできないものが数人から十数人いた。軍のお偉方の視察がある日には、故障組の女学生は倉庫や便所に隠れるよう命じられ、工場では全員がはつらつと働いているシーンが演出された。このあぶれ組がお便所組と呼ばれ、ほかの生徒から複雑な視線をあびた。

「斎頭」。「さいとう」と言い、各部品製造の作業速度や品質をそろえること。軍需工場でしきりに使われた。ただし原料が絶対的に不足しているうえ、配分方法にも欠陥があったから、飛行機のように数万種の部品からなるものは「斎頭」どころかバラつきの方がますますひどくなった。

◀5月、東京・有楽町駅に木彫りの大黒像が祀られた。以来お賽銭が積まれ、8月には50円を超えた。

朝日新聞社

衣 ソ連高官の夫人に贈る? 高級香水大量生産の謎

昭和一九年一〇月、資生堂に大量の高級香水の注文が舞いこんだ。委託製造だが、工場には箝口令が敷かれ、注文主もその目的も社内の数人の幹部しか知らなかった。この頃は香水はもちろん、容器の製造すら禁じられていたので、社内ではさまざまな憶測が流れた。なかでも有力だったのはソ連に講和を斡旋してもらうため、ソ連高官の夫人に贈るのではないかという説だった。

実はこの香水は、中国大陸向けだった。すでに日本の貨幣は信用を失っていたため、タングステンや銅などの戦略物資買い付けの見返りとして使われたのだ。香水は高額で、量が少なく、しかも簡単に輸送できるというので選ばれたのである。

(資生堂編『資生堂百年史』)

住 エレベーターも下降専門 必勝！ 節電態勢

二月一八日から電力制限が実施されたが、それにともない阪急百貨店では店内照明を三分の一以下とし、以前は売り場全体を華やかに照明していたのを、品物が見えればいいという程度にした。また昇降機械も上る時はうんと電力を食うから、三台のうち二台は下降専門として上りの客は乗せない。それらで四割の節電を行うという

(「大阪毎日新聞」一二月一八日)

◀近藤日出造「甜めきった舌 高慢ちきな鼻」。『決戦漫画輯』収録。

社会 灯がもれると罰金か懲役刑 初の防空法違反で起訴

夜間の空襲に際し灯火管制の一層の徹底が叫ばれているが、東京区検事局は初の防空法違反として、荏原区の財団法人理事・渡辺藤吉(四八)を灯火秘匿違反で起訴、罰金二〇〇円を命じた。同人は空襲の際には消灯するか、厳重に光を隠すべきなのに、去る三〇日夜、自宅の八燭光の電気をつけ、ほうろう製電気笠の上から風呂敷をかけただけだったため、屋外に灯をもらしたものである。なお同人には同情すべき点があったので罰金刑に処したが、当局は悪質者に対しては体刑(懲役一年以下)をもってのぞむ姿勢である。

(「朝日新聞」一二月二三日)

CM100年

雑誌CM「民族増強――エスチモン」(田辺製薬)

▲「生めよ殖やせよ」の国策にそった、不妊症・発育不全・生理障害の薬品の広告。

三面記事 おしゃべり防止にマスク

昔から女性とおしゃべりはつきものというが、女子勤労挺身隊の職場でも、作業中のヒソヒソ話のために部品組み立ての能率が低下しているほど。そこで一計を案じたある工場の工場長さん、「この職場はほこりが多く非衛生的だ」と言って女性全員にマスクをかけさせてしまった。これにはさすがの女子勤労挺身隊員も口をつぐまざるをえず、作業は順調、自然に増産となった。

(「朝日新聞」一〇月二五日)

▲商品が枯渇し、正常な営業ができなくなったため、銀座の三越が5月から貸し衣裳部を開設。 朝日新聞社

お尻でよかった「名誉」の負傷

漢口陸軍病院に勤務中のこと、朝、一人の兵隊がかつぎこまれてきた。朝食を終えて便所に入っていたところ、流れ弾が便所の中に飛びこんできてお尻に命中したというのだ。私は同僚に「戦地ではお便所でもうっかりしていられないわね」と言いながら、軍医殿の手術の助手をつとめた。兵隊は「お尻でよかった、前の方なら一大事だった」と何度も言いながら痛さに耐えていた。

(安斎貞子『野戦看護婦』)

軍事訓練で仮性近視を治す

海軍軍医学校では、先に採用した予備学生のうちの"眼鏡組"に対し、訓練期間を通じて厳正な軍規のもとに、遠くを見る望遠訓練、眼鏡の使用禁止などを忠実に実行させたうえで検査したところ、学生の三二％を一・〇以上の視力に引きあげることに成功した。一般人の場合も夜空の星を見上げるとか、運動する際に眼鏡をはずすなどの訓練を行えば、仮性近視の相当数は矯正が可能だろうという。

(「読売報知新聞」八月一八日)

▲軍用犬・猟犬のカタログ販売と子犬の買い上げ広告(2月)。12月には犬も供出対象に。

髪の毛も戦力だ! 回収運動始まる

髪の毛は最近、防音、防寒用のフェルト地をはじめ、いろいろな化学原料としてその需要が増してきた。そこで東京都資源回収連盟では、東京都理容組合を実行団体として、都下の全部の理容業者から髪の毛を回収することになった。理容組合の試算によると、都下の床屋さんから毎月出る髪の毛は、約一万四〇〇〇貫(五二・五トン)ほどあり、相当な量になる。これを一貫目一円五〇銭で買い取るという。また一般家庭で、自宅で散髪した場合の髪の毛も、捨ててしまわないでぜひ近所の床屋さんに持っていくよう、連盟では希望している。ただしこの場合は無料である。

(「朝日新聞」八月一八日)

▲8月11日、B29が北九州に投下した不発焼夷弾の分解写真。13日に新聞は「焼夷弾を生け捕り」と報した。

読売新聞社

この年の初もの 電気バスが、浅草―浜松町間を走る

●陶貨 金属不足を補なうため大阪造幣局で試作。ただし耐久性の実験中に終戦となり、日の目を見なかった。

●潜火服 二重になった布の間に水を入れ、布目や頭から水を噴射しながら火の中を歩きまわるというもので、神戸の薬屋さんが空襲対策として考案。

●水晶時計 イギリスのグリニッジ天文台に取り付けられる。

はやり歌

あゝ紅の血は燃ゆる

作詞 野村俊夫
作曲 明本京静

花も蕾も　若桜
五尺の生命　ひっさげて
国の大事に　殉ずるは
我等学徒の　面目ぞ
あゝ紅の　血は燃ゆる

後に続けと　兄の声
今こそ筆を　擲ちて
勝利揺がぬ　生産に
勇み起ちたる　つわものぞ
あゝ紅の　血は燃ゆる

君は鍬執れ　我は鎚
戦う道に　二つなし
国の使命を　遂ぐるこそ
我等学徒の　本分ぞ
あゝ紅の　血は燃ゆる

▶前年から行われるようになった、学徒動員にちなんで作られた。酒井宏と安西愛子が歌って、この年大流行した。

月夜船

作詞 藤浦洸
作曲 古賀政男

おおいそこゆく　のぼり船
今夜は月夜だ　どこ行きだ　え
船底いっぱい　荷をつんで
釜石行きだよ　追風だよ
追風だよ
おおい入り船　くだり船

今夜は月夜だ　おとまりか　え
積荷をしっかり　上げたらば
笛吹く間もなく　ひき返し
ひき返し

帆づなともづな　心づな
月が良いとて　ゆるめなよ　え
船は木造り　木の柱
腕はくろがね　気は勇む
気は勇む

◀波平暁男が歌ってヒット。「あゝ紅の血は燃ゆる」と同じく、ニッチクレコード(現・日本コロムビア)発売。

連合軍"ノルマンディー上陸"から80日 200万市民が歓喜したパリ解放の瞬間!

ロバート・キャパ/マグナム フォト

▲解放にともない、市民から制裁を受ける対独協力者。警官も、リンチを止める様子はない。

▶シャンゼリゼ通りを行進する連合国軍兵士。パリはナチス・ドイツの手から千五百余日ぶりに解放された。

WWP

一九四四年八月二五日、ドイツ軍が降伏しパリは解放された。一九四〇年六月のパリ陥落から四年余、連合軍のノルマンディー上陸開始から八〇日、喜びの鐘が打ち鳴らされ、歓声が響き渡る中、フランス軍は首都に帰還し、市民の熱狂的な歓迎を受けることになった。

異様な感動に包まれたド・ゴールの凱旋パレード

八月二六日午後三時、ド・ゴール将軍(五四)の凱旋パレードが始まった。三色旗が街中にはためき、歓呼の声が嵐のように吹き荒れる中、ド・ゴールはまず無名戦士の墓を訪れ、凱旋門からノートルダム大聖堂までの三キロをパレード。二〇〇万人の市民がこれに合流した。

沿道を埋めつくした市民の中には、にこやかに笑いかける人、将軍の手を握りしめたまま泣きくずれる人の姿も見られ、ド・ゴールの周囲は異様な感動に包まれていた。そしてド・ゴールはノートルダム大聖堂でミサをあげ、全世界にパリ解放を宣言したのである。

パリ解放で市内に一番乗りをはたしたのは、ルクレール将軍が指揮する仏第二機甲師団であった。

ヨーロッパ連合軍総司令官、アメリカのアイゼンハワー(五三)がパリ進撃に同意したのが八月二三日。兵員二万六〇〇〇人、戦車二〇〇台、車両四〇〇〇台を擁する仏第二機甲師団が、パリ郊外に到着したのは二四日深夜のことである。

自国の軍隊が到着したというニュースがラジオで報じられ、国歌である「ラ・マルセイエーズ」が流されると、真夜中

逃げ遅れたドイツ軍兵士がパリ市民に攻撃を加え、多くの死傷者を出すなど、パリ解放の戦闘では死者九八九人、負傷者三八五九人、パレードがあった二六日にも、死者一一〇人、負傷者七一九人を数え、その被害も甚大であった。

また一方では、ドイツ軍兵士との仲を噂された女性たちは剃髪や全裸の憂き目にあわされ、あるいはタールで体に鉤十字を書かれたりと、公衆の面前で恥辱を受けた。対独協力者として犠牲となった人々の総数は不明で、一万人説もあれば一〇万人説もある。

パリ解放を実現したレジスタンスの蜂起

パリでは一九四四年七月一四日以来、デモやストライキが頻発、一八日はFFI(フランス解放国内軍)の軍事指導者タンギー大佐の指令に基づき、CGT(労働総同盟)とCFTC(キリスト教労働者同盟)がゼネストを呼びかけドイツ軍に立ち向かった。

一九日には、警察官や学生たちも戦闘に参加し、パリ警視庁の建物を奪還、二〇日にはパリ市庁舎がレジスタンスによって解放された。そしてFFIがバリケードを築き、本格的な市街戦が始まる中、パリ解放が実現したのであった。

フランス近・現代史を専攻する香川大学教授の渡邊和行氏は、パリ解放の意味について次のように語る。

「あの戦闘は国民蜂起として戦われたのですが、それは同時に、ド・ゴールの個人的勝利とも言えます。無名の軍人で、当初は連合軍にも信用されなかったド・ゴールが、そのカリスマ性と頑固一徹の

にもかかわらずビルやアパルトマンの窓が開け放たれ、パリ市民は解放の喜びを分かちあった。教会の鐘が打ち鳴らされ、街路にたかれた焚き火のまわりでは、市民が手に手をつないで踊り明かした。

そして翌日の二五日、仏第二機甲師団は、パリの南と西の門から市内に入城、午後三時、パリ駐留のドイツ軍司令官、コルティッツ将軍との間に降伏文書が交されて休戦が成立した。

コルティッツ将軍が、ヒトラーの「もし敵の手中に渡す時は、パリは廃墟になっていなければならぬ」とする秘密文書をたずさえてパリに乗りこんだのは、この年八月八日のことであった。

しかし、パリをこよなく愛したコルティッツは、パリを破壊から救うために、すでに準備が終わっていた爆破指令を遅らせるなど、ヒトラーの命令を無視してスウェーデン領事の仲介で、連合軍到着までの時間を稼ぎ、ルクレール師団の前に白旗を掲げたのである。

パリ解放は、ドイツ軍の抵抗と対独協力者への報復の始まりでもあった。

外から見たNIPPON

タバコの包み紙に書かれた朝鮮人軍夫・金元栄"沖縄日記"

――佐伯　修

この年七月八日の晩、日本統治下の朝鮮慶尚北道義成郡點谷面（村）の農夫、金元栄（二三）のもとに、「軍夫徴発令状」が届けられた。軍夫とは、前線で、弾薬や食糧の補給にあたる下級軍属で、軍服を着ながら武器もなく、相当な危険にさらされる。

有無の言えぬ令状に、金も、長年病床にある父を置いて出頭するほかはなく、結局、彼らは「暁部隊水上勤務隊」として沖縄へ送られることになった。

ともあれ、朝鮮人でありながら、支配者日本の軍に従うことで、「かつては、大東亜共栄圏の理想を信じ、日本の戦争を、西欧勢力を撃退して、東洋の平和を築くための正義の戦争だ」と考えたこともある金も、大きな苦痛と苦悩をなめなければならなかった。儒教的な孝行心の持ち主である金は、まず、父の死の報にうちのめされる。

金は、陣中で、ひそかに官給品のタバコの包み紙に、刻明な「日記」を書いていた。米軍の捕虜となった際失われたが、後に復元されたこの「日記」には、朝鮮人を蔑視したり虐待する日本軍将兵も大勢出てくるが、逆に金たちを、身をもってかばう下士官や、一部の理性的で良識ある将校も登場する。また、一時、兄妹のように心かよわせた慰安所の朝鮮人少女が、初めて客をとらされた直後、彼女らを買う同胞もいるかたわらで、支給された衛生サック（コンドーム）を風船にして飛ばす、金自身のやるせない姿も綴られている。

▲沖縄・座間味島の資料館前で。　三一書房提供

そんな金が激しく民族意識を揺さぶられるのは、かつて朝鮮と同じように独立王国でありながら、日本帝国に組みこまれ、本土からの偏見にさらされる沖縄の人々の姿に出会った時だった。彼は「この沖縄に住む、一介の土着民」として、「地域差別」糾弾の演説を行った老将校に、「我々朝鮮人が日頃、抱いているのと、全く同じ感情」の存在を感じ、また、日本の軍服を着て、沖縄の村から食糧を徴発する己が身を恥じた。

やがて、米軍が上陸し、地獄の戦闘の終わりに、軍夫の「組長」だった金は、同胞たちに次のように訓示するのだった。

「これから各自、自分が助かる、と思う道を、お取りなさい。が、絶対に、日本人といっしょに行動してはいけません。彼らは、最後の一瞬まで戦おう、という精神の持ち主ですから、我々には、最も危険な存在です。（中略）もし米軍が近くに来たら、両手をあげて、投降の意思表示をしてから、『自分は朝鮮人だ。』とはっきり名のりなさい」（岩橋春美訳『朝鮮人軍夫の沖縄日記』）

強烈なナショナリズムによって共産党などさまざまなレジスタンス組織を糾合し、政治家としての地位を築き、救国の英雄となった過程でもあったのです」

まさに、「マキ」や「白アリの巣」など、国内のレジスタンスグループを結集させたのはド・ゴールであった。

ド・ゴールは一九四〇年六月のパリ陥落後にロンドンに脱出し、あくまで降伏を拒否するただ一人の将軍として「自由フランス」を組織し、ドイツ軍への抵抗と反乱を訴え続けていた。

「自由フランス」はその後、徐々に政府機構を整備、四四年には各レジスタンスの武装勢力がFFIに統合され、六月二日には共和国臨時政府（仏国民解放委員会が改称）が名乗りをあげたのである。

一方、六月六日、連合軍はフランス北部の海岸、ノルマンディーに上陸し、ドイツ軍追撃が開始されると、フランス国内のレジスタンスも蜂起した。そして、一〇〇万人もがドイツ軍の退路を絶つため鉄道を破壊するなどの後方支援を行い、パリ解放の布石を打ったのである。

解放のスピードは速く、ノルマンディー上陸からわずか四ヵ月でアルザス以外のフランス全土が解放され、ド・ゴールは順にそれらの地域をまわり、凱旋パレードを繰り返した。

C・ド・ゴール（1890〜1970）
フランスの軍人・政治家。第二次大戦中英国に亡命。フランス共和国臨時政府主席、首相を経て一九五八年大統領に。『ド・ゴール大戦回顧録』など。

D・アイゼンハワー（1890〜1969）
アメリカの軍人・政治家。一九四三年、ヨーロッパ連合軍総司令官に。一九五二年、大統領に当選。朝鮮戦争の早期終結をはかる。

▶八月二六日、ルクレール将軍を従えて、凱旋門をくぐりぬけパレードするド・ゴール。　WWP

往きて還らぬ

▲12月4日　永井柳太郎(63)
政治家。大正9年衆議院議員に当選。普通選挙法の成立に尽力したが、後に全体主義への志向を強めた。

▲11月24日　辻潤(60)
大正から昭和初期に活躍したダダイストで、昭和5年雑誌「ニヒル」を創刊。著作に『ですぺら』『浮浪漫語』など。

▲2月15日　河合栄治郎(53)
東大教授で社会政策を担当、マルクス主義にもファシズムにも反対。昭和13年『ファシズム批判』など4冊が発禁に。

▶4月28日　中里介山(59)
小説家。代表作の『大菩薩峠』(未完)は、大正2年から昭和16年まで書き継がれた。ほかに『夢殿』『法然』など。

▲1月23日　E・ムンク(80)
ノルウェーの画家で、恐怖と内面の苦悩を表した作品で知られる。代表作に「叫び」「病める少女」など。

毎日新聞社

▲12月15日　グレン・ミラー(40)
アメリカの音楽家。ベニー・グッドマンと並び"スイングの王様"と言われた。前線慰問中、英仏海峡で消息を絶つ。

オリオン・プレス

▼7月31日　サン・テグジュペリ(44)
童話『星の王子さま』で世界的に知られるフランスの小説家。第2次大戦に従軍、偵察飛行中に行方不明となった。

▲2月7日　三上於菟吉(53)
小説家。大正末期に大衆文学で人気を集めた。代表作に『淀君』『雪之丞変化』など。劇作家・長谷川時雨は夫人。

▲12月30日　ロマン・ロラン(78)
『ジャン・クリストフ』を著したフランスの小説家。ほかに『魅せられたる魂』など。1915年、ノーベル文学賞受賞。

▲12月1日　村上浪六(78)
小説家。明治24年『三日月』でデビュー。男の心意気を描いた大衆小説で人気を集めた。ほかに『当世五人男』など。

▼10月5日　頭山満(89)
明治から昭和にかけての右翼の大物。明治14年「玄洋社」を結成。終始公職につかず、政界に影響を与え続けた。

▲2月8日　添田啞蟬坊(71)
演歌師。全国を歌いながら放浪、鋭い社会諷刺の歌で人気を集めた。代表作に「ラッパ節」「あゝ金の世や」など。

ミニ事典

1944年のキーワード

建物疎開命令

人口密集地や軍需工場周辺の空襲による延焼を防ぎ、消火活動を容易にするため、建物を取り壊して防火地帯を作ること。内務省が一月二六日、東京と名古屋に発令、東京都では一月から五月の間に合計五万五〇〇〇戸・五万八五〇〇世帯がその対象となった。疎開者は査定により各自治体から補償金を受けたが、十分なものではなかった。

技術院賞

戦力増強に貢献した科学技術の研究に対して技術院が設けた賞。第一回授賞式が二月一一日、東京・麹町の華族会館で行われ、生ゴムからの潤滑油製造、合板・積層材の船舶材料応用、航空機エンジン製造機械の改良、鉄を触媒とする石油合成法の開発、天気予報の定量化の研究、稗の多角利用法など二〇件が表彰された。

竹槍事件

二月二三日付「毎日新聞」が「敵が飛行機で攻めて来るのに竹槍をもっては戦ひ得ないのだ」などと記した記事に対して、東条英機首相が反戦思想だと激怒し、同紙を発禁処分にした事件。記事は新名丈夫記者が、海軍の指導により執筆、東条首相の本土決戦論を批判したものだった。新名記者は陸軍から懲罰召集されたが、海軍の抗議により解除、後、海軍報道班員として徴用された。

享楽追放

戦時総動員体制の徹底をはかるため二月二五日に閣議決定された一五項目からなる決戦非常措置要綱に基づき、三月五日から実施された「高級享楽の停止」措置。東京・歌舞伎座、京都南座など全国一九劇場が閉鎖。また都内だけでも帝国ホテル・上野精養軒など約八五〇の高級料理店、待合約四三〇〇、芸妓屋約四三〇〇、バー・酒場・喫茶店など約二〇〇〇軒が休業させられた。大劇場は軍が接収、ほかは食堂などになった。

朝日新聞社

▲3月、インド国民軍を閲兵するボース。

自由インド仮政府

イギリスからのインド独立を掲げて前年一〇月、シンガポールで発足した仮政府。チャンドラ・ボースが首班となってインド国民軍を組織、ガンジーらの非暴力不服従運動に対し、日本の支援による武力解放を主張した。日本のビルマ方面軍が三月八日に開始したインパール作戦に国民軍は二個師団余で参戦。インド領内に国民軍の拠点づくりをめざしたが失敗。二〇年八月ボースの死亡で一万八千余人が英軍に降伏した。

野菜買い出し禁止

四月になると農家の供出量確保と、買い出しによる混雑緩和のためとして、千葉県や埼玉県が、野菜類の県外移動禁止の措置をとった。配給の野菜は種類や量が限られるうえ、輸送力の低下による闇値の高騰で、都内から近県への買い出しがさかんになっていた。警視庁は四月二四日、三多摩など都下の産地に出荷をうながす通達を出したが効果はまったくなく、逆に米などの主食を求める買い出しがふえるばかりだった。

毎日新聞社

◀五月五日に古賀長官の死亡が公表され、七日に遺骨が東京駅に到着した。

海軍乙事件

米機動部隊が三月三一日、パラオ島を空襲した際、連合艦隊司令長官・古賀峯一ら首脳は飛行艇でダバオへ移動中、悪天候のため遭難、古賀長官ら三人は死亡し、司令部の機能を喪失した。同時に参謀長らが抗日ゲリラに捕らえられた。四月一二日に日本の討伐隊が救出した時には、すでに暗号書と機密文書は、米軍の手に渡っていた。海軍はこの事件を「乙事件」と呼称し、公にしなかった。

Dデー

連合軍のノルマンディー上陸作戦決行日六月六日のこと。ディシジョン・デーの略。一九四〇年のダンケルク撤退以来、ヨーロッパの拠点を失っていた連合軍は、ドイツが東部戦線の対ソ戦で苦しんでいる間に、第二戦線を築く作戦を立てた。それが「史上最大の作戦」と言われ、大戦を勝利に導く序曲となったノルマンディー上陸作戦だった。

共同通信社

▶九月四日の最高戦争指導会議。

VT信管

アメリカが対空高射砲の撃墜率向上のために開発した信管。高角砲弾に装着、目標に接近すると電波を発射し、その反射波を感知して弾薬を爆発させる。六月のマリアナ沖海戦で登場、日本機がバタバタと撃墜されていくのを米軍が「マリアナの七面鳥射ち」と言うほど効果をあげた。

最高戦争指導会議

小磯国昭首相の提唱で大本営政府連絡会議に代わって八月五日に設置された日本の最高戦争指導機関。統帥(作戦)部に対する政府の発言力を強め、国務(生産)との緊密化をめざした。構成員は首相・外相・海相・陸相の四大臣と参謀総長、軍令部総長。重要審議には天皇も臨席した。

捷号作戦

フィリピン、台湾・南西諸島、日本本土、千島列島の四つの区域に分け連合軍を迎撃する作戦。順に「捷一号」「捷二号」「捷三号」「捷四号」と称した。一〇月一八日、フィリピン諸島への上陸をねらう連合軍に対し大本営は「捷一号作戦」を下命、四昼夜のレイテ沖海戦で、連合艦隊は壊滅、日本はフィリピンの制空権・制海権を失った。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀 1944

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室+渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エー・ビー・シー・プレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シト・プロ (有)マックス (有)マライカ
小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘
結城順一 吉田忠正
●写真協力
梅本忠男 奥村健太郎 影山光洋 影山智洋 鎌田公雄 菊池徳子
木村伊兵衛 楠田守 田中義元 田村茂 中野美重 服部昌一郎
林重男 平野美津子 福田俊一 松田正志 ロバート・キャパ
朝日新聞社 潮書房 光人社 オリオン・プレス キーストン 共同通信社 月刊沖縄社 CORBIS-BETTMANN 三書房 JPS 中日新聞社 西日本新聞社 PPS Popperfoto 毎日新聞社 マグナム・フォト 文殊社 ユニフォトプレス 読売新聞社 WWP
黒澤プロ 新日鐵八幡製鉄所 宝塚歌劇団 東宝 俳優座 三菱重工業長崎造船所 八木アンテナ
アメリカ国防総省 気象庁 日本近代文学館 埼玉県平和資料館
豊島区立郷土資料館 パイロット筆記具資料館 無言館 明治・大正・昭和戦争博物館 立命館大学国際平和ミュージアム

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

週刊YEAR BOOK 日録20世紀

第23号 7月15日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1946[昭和21年]

●特集
「東京裁判」開廷! A級戦犯七人に絞首刑宣告/関東大震災以上、「南海道大地震」の惨状/「何でもあり、何でも売れた」食糧難の焼け跡に続々"闇市"誕生/コンピュータ時代の幕を開けた世界初の電子計算機「ENIAC」完成

●ニュース・ファイル
フォト+日録で再現する365日…帰ってきた野坂参三(1月26日)/天皇巡幸(2月19日)/DDT散布計画発表(3月7日)/メーデー、一一年ぶり復活(5月1日)/国産ペニシリン量産へ(7月)/引揚げ者収容所(8月)/ニュルンベルク裁判、判決下る(10月1日)/「話の泉」スタート(12月3日)

●人物クローズアップ
「永遠の処女」原節子

●決定的瞬間
ビキニを"死の島"にした原爆実験

●美の出会い
「ブロンディ」のアメリカン・ライフ

●女たちの肖像…ヴァイニング夫人と皇太子/勝者・敗者…"青バット"大下弘/証言・あの日この日…児玉誉士夫、正岡容/20世紀博物館…安江金箔工芸館(石川)/「現場」を歩く…「アーニーパイル」劇場の二〇〇一年/外から見たNIPPON…ベネディクトの『菊と刀』

●ベストセラー…尾崎秀実の"汚名"の真相『愛情はふる星のごとく』/スターと名場面…原節子「わが青春に悔なし」、田中絹代「歌麿をめぐる五人の女」/モノ語り'46…「ピース」と「爪紅」

飲み過ぎ
胃のもたれ
胃の痛みに…
太田胃散

天然の良さを生かした
『生薬』の配合にこだわり
時代に媚(こ)びず
時代とともに『百十八年』
常に健康を願って
明日に向って歩む
太田胃散

Ohta
株式会社
太田胃散
東京都文京区千石2－3－2

・分包タイプ・

飲みすぎ・胃のもたれ・胃の痛みに
太田胃散〈分包〉
芳香性健胃消化薬
Ohta's Isan
22包

太田胃散
芳香性健胃消化薬
東京都文京区千石2-3-2
株式会社 太田胃散

●生薬の効きめ

ケイヒ・チョウジ・ウイキョウ・ニクズク・ゲンチアナというような生薬は自然でおだやかな健胃効果を持っています。これらの生薬成分が互いに効力を発揮し、働きの弱った胃をなおします。

●さわやかな服用感

胃の酸度を調整し、胃粘膜保護作用のある制酸剤や、消化酵素が配合されています。生薬の芳香味とℓ−メントールの清涼感が胃をスッキリさせ、服用感で効きめの良さがわかる胃腸薬です。

●自然を生かす

太田胃散の生薬は芳香性成分を生かすため、できるだけ加工をさけ、自然により近い形にしてあります。これも太田胃散の特長のひとつです。

飲みすぎ・胃のもたれ
胃の痛みに…

太田胃散

週刊YEARBOOK 日録20世紀

雑誌 23704-7/22　T1123704070564
Ⓛ-2001/1/1

印刷　凸版印刷株式会社　製本　本村製本株式会社